

京都学生祭典実行委員の活動を通じた成長実感調査 II

～地域活性化活動の効果検証と今後の事業改善に向けて～

【代表者】 京都文教大学 総合社会学部 森正美 教授

【調査研究メンバー】 佛教大学 社会学部 准教授 大束貢生

龍谷大学 社会学部 准教授 笠井賢紀

(公財) コンソーシアム京都 事務局長 桂 良彦

学生交流事業部 次長 生谷 謙次

学生交流事業部 主幹 筑田 一毅

1. 全体概要

(1) 研究の目的

京都学生祭典実行委員会の活動はインターカレッジで社会と連携して行う正課外活動である。2016年度はとくに、これらの活動を地域と連携して展開していこうとする試みが「地域活性プロジェクト（以下、地活、と記載）」を通じてなされた。

これらの活動により、学生たちがどのように成長するのかを定量的・定性的に分析し、昨年度までのテーマであった、インターカレッジ活動による成長という観点と地域との連携の効果を検証し、今後の事業改善に活かすことを目的とした。

(2) 研究手法

本研究においては、量的調査と質的調査を組み合わせた。量的調査においては、客観的成長と主観的成長の双方をとらえようとした。質的調査においては、インタビュー調査を中心に実施したが、その際も地域などの関係者からの学生たちに対する評価と学生たちの自己評価という複眼的視点を意識して調査を実施した。

a. 量的調査

客観的に「ジェネリックスキル（コンピテンシーおよびリテラシー）」を測定できるPROGテストを学生の活動前後で実施し、学生の成長を「客観的」に把握した。

また、学生祭典実行委員に求める独自の能力指標をレベル別に確認できるルーブリック形式のアンケートにて調査し、学生の成長を「主観的」に把握した。さらに成長が祭典活動によるものか否かを学修活動アンケートによって調べた。2016年度は、ルーブリックに地域における活動経験を組み込むことで、地域活性プロジェクトへの参加との関係性を検証できるようにした。

b. 質的調査

地活に参画した地域や企業関係者から、学生たちと活動した結果感じたことなどについてのインタビューを実施した。

また、プログテストの結果を踏まえ、成長が著しかった学生たちに、事後インタビューを実施した。成長実感などについての2015年度同様の内容に加えて、地活についての評価についても聞き取りを実施し、学生の成長実感と地活の関係性についての考察材料とした。

(3) 結果と考察

量的調査からは、学生祭典をがんばったと主観的に評価している学生たちは、客観的にコンピテンシー対人基礎力が伸びており、とくに「協働力」の向上が関係していることがわかった。

2016年度のこの結果は、2015年度の結果と同様の傾向を示しており、学生祭典実行委員会の活動は、学生たちが「協働力」を獲得できる場となっているといえる。

また、2016年度の注目項目であった「地域の理解」ののびについてみると、この項目が伸びた人は「自己基礎力」も伸ばしていることがわかった。

地域活性プロジェクトを通じては、実行委員である学生たちの「地域への理解」「京都への愛着」などがより向上するのではないかと考えられていた。しかし質的調査として実施した、全体的なインタビュー結果からは、以下のような結果がよみとれた。学生たちが考える2016年度地域活性プロジェクトの意義は、(1)本祭の広報活動、(2)京都への貢献／恩返し、(3)本祭の前の予行演習の役割の3つに大別できた。つまり、地域活性化というテーマそのものへのアプローチというのはなかなか困難であったといえる。

(4) 今後の事業改善にむけて

京都学生実行委員会の活動は、課外活動ではあるが、学生たちの能力開発に有効性をもっていること、またそのコンピテンシーの到達度は、社会人のレベルに相当することも、過去2年間の研究で明らかになった。

しかし一方で、今年度実施した「地域活性化活動」については、学生たちにとって、また地域にとっても、その有効性が「成長」という観点から評価されたとは言いがたい状況であった。このような状況は、今後祭典活動を、「京都」という地における「学生＝若者たち」の愛着形成や地域定着などにとって、どのようなものとしてゆくのかを、改めて検討する必要性を示唆している。

現在は、大学コンソーシアム京都の学生交流事業部の職員らの努力によって、学生たちのサポート業務が担われているが、そのサポート体制の教育的な充実があれば、活動の成果が地域に定着する可能性が高まるのではないだろうか。毎年150-200名の若者が熱意をもって活動を継続している状況を、各委員会のメンバーだけでなく、サポート企業や関係者がさらに評価し、京都の活力源としてサポートしていく体制の充実がのぞまれる。

2. 研究概要

(1) 研究の背景

a. 京都学生祭典概要

京都学生祭典は、学生の力で京都を盛り上げようと2003年から毎年10月、京都・岡崎地域（平安神宮前・岡崎プロムナード一帯）をステージに繰り広げる一大イベントである。開始当初から、大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の学生らでつくる京都学生祭典実行委員会が主催者として企画運営を担い、京都府や市、京都商工会議所・京都経済同友会、大学コンソーシアム京都が組織委員会を構成して支援している。

京都学生祭典実行委員会は、祭典から誕生したオリジナル創作おどり「京炎 そでふれ！」の全国おどりコンテストをはじめ、学生によるファッションコンテストや音楽コンテストの実施するほか、多様な世代に楽しんでもらえるよう「縁日企画」や「こども企画」など1年間かけて準備してきた。祭典のラストを締めくくるステージ「Grand Finale」まで、毎年10万人（実行員会調べ）を越える観客があり、これら来場者を一日かけてもてなしている。

特に、2016年度の第14回京都学生祭典では、通年で実施している岡崎地域の交流活動（夜警パトロールや打ち水等）に加え、「地域活性プロジェクト」に取り組み、「京都学生祭典プレイベント in 伏見」（京都市伏見区）と「京都学生祭典プレイベント in 出町柳」（同左京区）を実施し、新たな地域との連携や協働を図った。

b. 実行委員会概要

2016年度は、23大学から231名の学生が実行委員として活動を行った。学年内訳は、1年生102名、2年生72名、3年生56名、4年生1名であった。複数年参加している学生も5割から6割存在し、200名を超える学生たちが下の図に示すように7つの部署と執行部に分かれ、企業や行政、地域と連携しながら、1年を通じて正課外のインターカレッジな活動を展開している。

図1. 運営体制

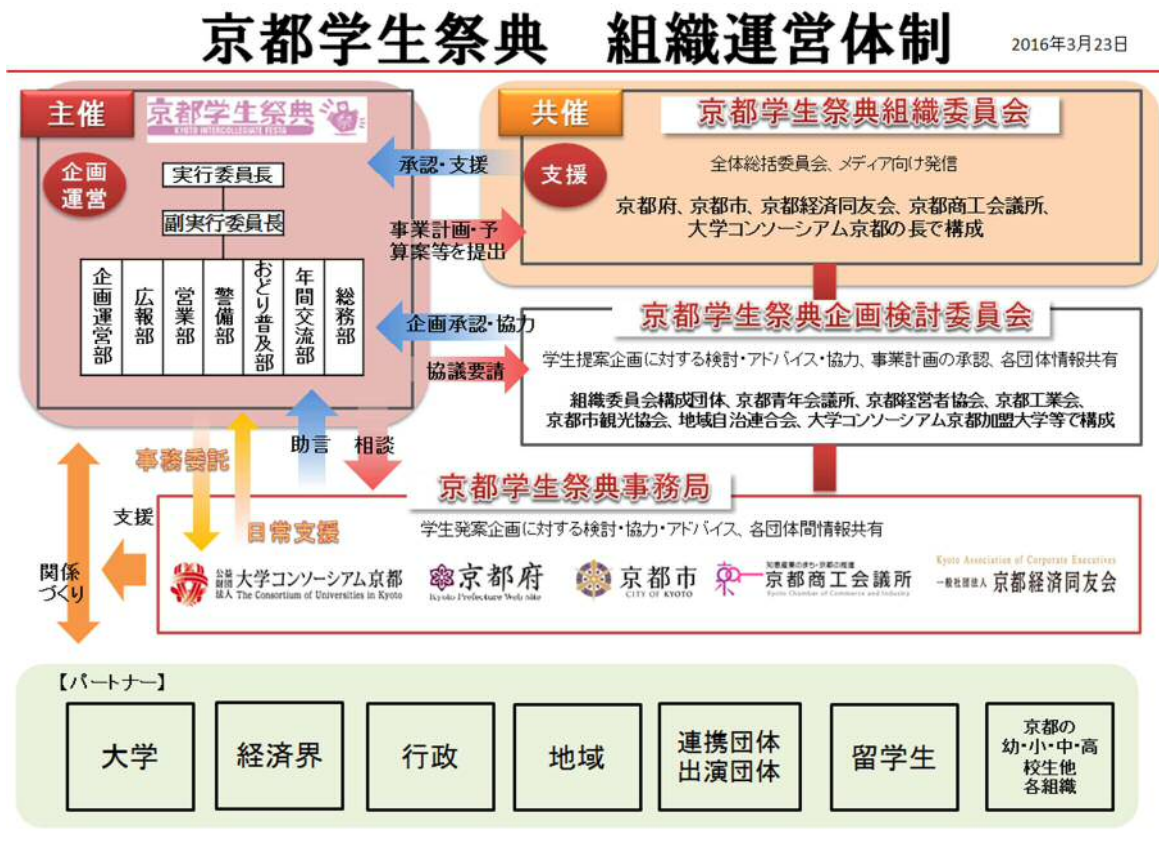
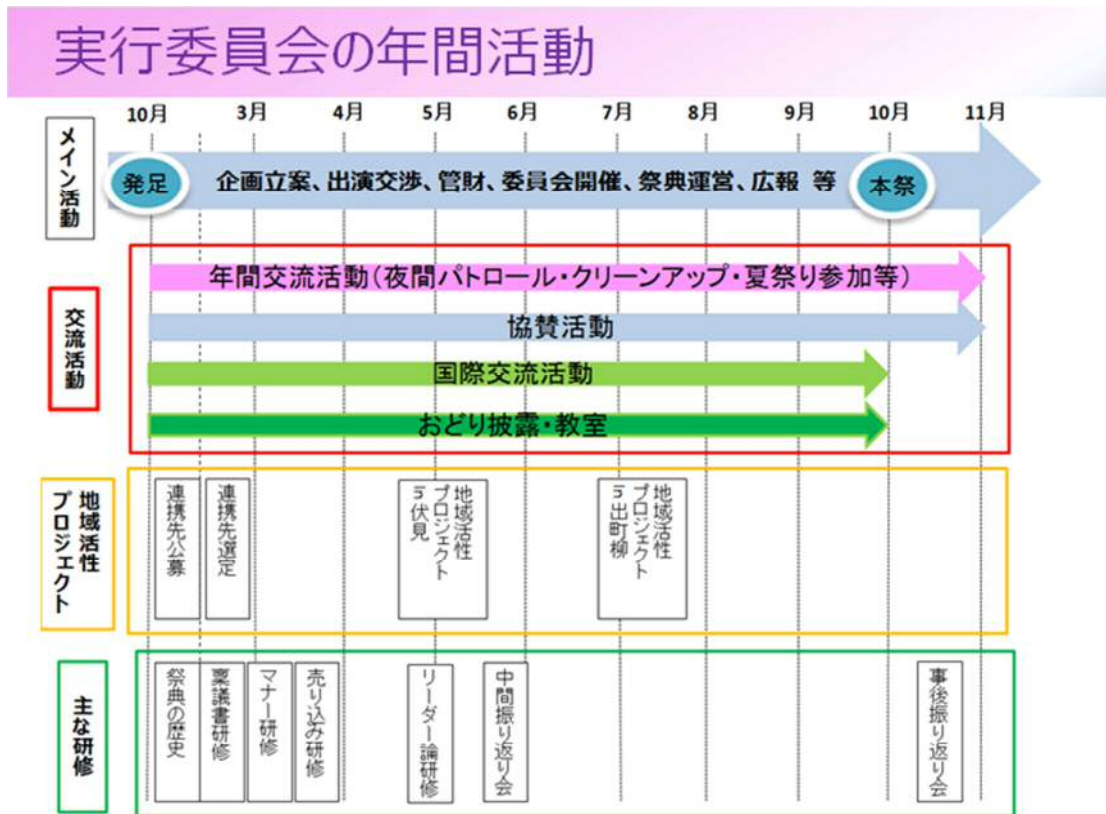


図 2. 通年にわたる活動内容



c. 実行委員会に対する活動支援及び自己成長にかかわる取り組み

実行委員会への活動支援は大学コンソーシアム京都（所管：学生交流事業部）が実行委員会から業務委託を受け、専属職員 2 名が事務補助・経理業務・学生支援を行っている。職員は実行委員会活動をひとつの PBL（プロジェクト型学習活動）として捉え、職員主導でプロジェクトを進めるのではなく、学生たちが自身の力でプロジェクトを遂行できるよう支援している。また、学生たちに活動を通じた自己成長を実感してもらうための取り組みとして、研修の企画・運営に関するアドバイス、中間・事後ふりかえりワークショップの実施、事前・事後アンケートの実施も行っている。

d. 地域活性プロジェクト

京都学生祭典は「学生のまち・京都」の魅力の発信とそれを通じた地域活性化」をミッションとして実施している。第 14 回京都学生祭典では連携先を公募し、本祭前のイベントにて地域等と連携した取り組みを実施することで、学生の力や視点で地域活性化を図ることを目指した。

本プロジェクトは、2015 年 11 月に公募を開始し、11 団体から応募があった。その中から「活動エリアが京都地域（京都市、京都府下）であるか」「学生の力や視点を活かして、地域活性化を図ろうとしているか」「学生と一緒に企画をつくりあげてことを大切に考えているか」「本祭に繋がるプロジェクトであるか」という 4 つの選定基準のもと選定を行い、2016 年 1 月に 4 団体を選定した。（伏見大手筋商店街振興組合、公益財団法人京都府公園公社伏見港公園管理事務所、京阪電気鉄道 株式会社、出町商店街振興組合）

その後、選定した団体・企業と共にイベント内容を企画し、2016年5月に「地域活性プロジェクトPart 1 in 伏見（伏見大手筋商店街振興組合、公益財団法人京都府公園公社伏見港公園管理事務所、京阪電気鉄道 株式会社）（以下、伏見プロジェクトと記載）」、7月に「地域活性プロジェクトPart2 in 出町柳（京阪電気鉄道 株式会社、出町商店街振興組合）（以下、出町プロジェクトと記載）」を実施した。

図3. プロジェクトのイメージ



(2) 研究目的

本研究では、①学生たちは、活動を通じてどのように成長しているか、実行委員会活動の特性とは何か、さらに京都学生祭典の活動だからこそ学生が成長することは何かを明らかにすることを目指した。

また、②地域活性化活動への参画を通じて、学生たち自身の地域への認識がどのように変化したか、③地域の側は、学生たちの活動をどのように受け止め、地域の受け入れ体制によって、学生の成長や地域への効果などにどのような違いがあるかを把握することなども今年度の目的であった。

このような研究を通じて、京都学生祭典実行委員会活動の課題と今後に必要なサポート、あるいはコンソーシアム事業として目指すべき姿を考えることも本調査課題の最終的な目的といえる。

(3) 研究対象

京都学生祭典実行委員会の学生を対象として調査を実施した。活動の事前段階での、ループリックアンケートの回答数が74名であった。活動の事後には、ループリックアンケートを105人が回答し、PROGテストを98人が受験した。

これら3種類全てを受験した者が68名であり、これを本研究の調査対象とした。

また、地域に出て、様々な方々と連携して活動を実施したということもあり、これらの活動についての、地域や関係者からの評価についてインタビュー調査を実施した。

(4) 分析方法

量的資料として得られたプログテストの結果と自己評価によるルーブリック調査および学修アンケートをクロスして分析し、学生たちの成長とその実感の度合いを分析考察した。また学修アンケートからは、これまでの地域活動の経験と2016年度の活動を通じての地域での活動による成長との相関の有無などにも注目した。

今年度の学生の成長実感に関するインタビューについては、とくに地域活性プロジェクトの効果やそれらの活動についての学生や地域双方の認識について把握することを主眼とした。そのため、地域活性プロジェクトに関する内容やキーワードを拾い上げ、そこからみえる効果を分析した。

(5) 研究体制

これまで京都学生祭典のワークショップや、PBLの実践に関わってきた研究者と、実行委員会のメンバーを日常的にサポートしている職員による共同研究を実施した。研究メンバーは標記の通りである。

全体の研究調整を代表者の森が担当し、量的調査の分析は主に大東が担当、インタビューの実施と資料分析は笠井が担当した。PROGテストのデータ処理については、(株)リアセックに委託した。

ルーブリックの原案の修正や、調査データの分析や二次加工などについては、年8回開催した研究会の際に議論を重ねた。またインタビュー対象者の選定には、日常的に実行委員と接している学生交流事業部職員の意見を参考にした。

3. 研究のオリジナリティ

(1) 調査対象の独自性

学生の成長実感、あるいは成長評価に関する調査は、正課授業に関するものは数多く実施されているが、課外活動に対する調査はまだ多くない。特に京都学生祭典は、複数の大学の学生が参加しているインターカレッジの活動であること、さらに社会との連携をしている課外活動としては日本最大規模であり、このような課外活動において学生がどのように成長するのかを調査した事例としては他に類をみない規模である。

また、地域との連携活動の効果を検証しようとする手法は、学生にとっての地域活動の意義を考察するだけでなく、学生活動による地域へのインパクトを検証しようとする研究ともなり、各種地域連携活動の評価の参考ともなると考えられる。

(2) 調査手法の独自性

PBLの評価調査といった場合、学生による自己評価を中心としたものが一般的である。しかし本調査においては、PROGテストの結果と、独自の指標を用いたルーブリック調査、さらに学生個人に対するインタビュー調査を実施している。これらの

量的/質的調査の関連分析を行い、客観的な成長の度合いと、学生の主観的成長の実感とを双方向から分析している点が特徴的である。

さらに、地域関係者へのインタビューも実施し、活動に関与しているステークホルダーの見解を学生の成長実感と結びつけて検証しようとした点がユニークである。

4. 研究内容

(1) 量的調査の結果

a. 調査の概要

先述の2章2節で述べた3つの目的のうち、学生の成長実感に関わる2つの目的、すなわち①学生たちは活動を通じてどのように成長しているか、京都学生祭典の活動だからこそ学生が成長することは何か、②地域活性化活動への参画を通じて、学生たち自身の地域への認識がどのように変化したか、について分析を行うため以下の調査を行った。

b. 成長を客観的に測定する「プログテスト」

実行委員会に属する学生の特徴や活動から育まれる力量を客観的に明らかにするため、客観的に「ジェネリックスキル（コンピテンシーおよびリテラシー）」を測定できるプログテストを学生の活動前後で実施した（文末資料1参照）。時期は学生祭典活動後（事後）テストを本祭終了後の2016年10月中旬から11月下旬に実施した。なお、経年の比較については昨年度受検した実行委員を対象に行った。

c. 成長を主観的に測定する「ルーブリックアンケート」

昨年度作成した学生祭典実行委員に求める独自の能力指標をレベル別に確認できるルーブリック形式のアンケートに地域への理解項目を追加した（文末資料2参照）。グループワークを通じて学生祭典を成功・発展させることができる人物像や、求められる力量を洗い出すことで様々な能力を整理し、その結果を活動前後で比較することで実行委員会に属する学生の特徴や活動から育まれる力量を主観的に明らかにする。時期は学生祭典活動前（事前）アンケートを2016年6月に、学生祭典活動後（事後）アンケートを本祭実施後の2016年10月に実施した。

d. 成長が学生祭典実行委員の活動によるのかを測定する「学習活動経験アンケート」

参加学生が行っている学習活動において、主観的にどの程度がんばったのか、客観的にどの程度の時間を費やしたのかを見るために、学生の属性と学習活動経験に関するアンケートを上記cのアンケートに付随して実施した（文末資料3参照）。今年度は「地域への活動」を学習活動に追加した。時期はcと同じく、学生祭典活動前（事前）アンケートを2016年6月に、学生祭典活動後（事後）アンケートを本祭実施後の2016年10月に実施し、学生はいずれかにて回答している。

e. 調査対象及び調査方法

調査対象は、2章3節にあるように3つの調査をすべて受けた68名である。またプログテストは学生祭典活動後（事後）に1回行っているが、2015年度も実施しており、本年度と昨年度両方を受検した受験者が34名いる。当該の学生については経年の成

長項目について調査を行った。なお、分析については SPSS. 23. 0J を使用した。

f. 学習活動経験と客観的な成長項目との関係

学習活動アンケートにおいて主観的ながんばり度合いとプログテストとの関係をみるために、相関分析（ピアソンの積率相関係数）を行った（図 4）。主観的ながんばり度合いについては「授業」「課題解決型・実践授業（大学の授業または学内プロジェクト等）」「学内イベントの企画・運営等」「部活・サークル」「インターンシップ・実習」「ボランティア学習（大学主催の地域貢献活動・社会活動）」「アルバイト」「学生祭典（大学コンソーシアム京都の事業）」「ボランティア活動（大学と関係のない自主的活動）」「友人や家族との交流」「家族との交流や世話」「趣味・習い事」「地域の活動（まつり・清掃・防災・防犯活動など）」の 13 項目について、それぞれの項目をどの程度がんばったのかについて、6 件法で質問を行った。また、プログテストは学生祭典活動後（事後）のスコアを用い、最大値は 7、最小値は 1 とし、リテラシーに関連する 6 項目、コンピテンシーに関連する 9 項目での平均値との相関を析出した。

結果、「学生祭典」と正の相関となっている成長項目は 1% 有意の水準で、コンピテンシー対人基礎力の「協働力」（相関係数 0.443）であり、学生祭典の活動がんばった人とコンピテンシー対人基礎力の「協働力」の向上が特に関係していることが明らかになった。なお、昨年度の実行委員に対する調査においてもコンピテンシー対人基礎力の「協働力」の向上と関係していることから（2015 年度大学コンソーシアム京都指定調査課題調査研究報告書参照）、学生祭典の活動は実行委員のメンバーに関わらず、コンピテンシー対人基礎力の向上と関係していると考えられる。

図 4. 学生祭典に対する頑張り度合いとプログテストの相関関係

2. 各種活動の努力度と基礎力＜学生祭典（大学コンソーシアム京都の事業）＞ 相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは、対人領域の「協働力」のみであった（有意確率 1% 未満）。
±0.2～0.4 未満の弱い相関では、対人領域の「親和力」「統率力」、対自己領域のすべての基礎力で相関がみられる。リテラシーでは相関は見られない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：学生祭典（大学コンソーシアム京都の事業）（経験者/N=62）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。

g. 主観的な成長評価と客観的な成長項目との関係

次に、プログテストでの「協働力」が、主観的な成長評価項目とどのような関係にあるかをみるために、主観的な成長評価項目とプログテストの相関分析（ピアソンの積率相関係数）を行った。主観的な成長を測定するルーブリックアンケートでは、個人活動の評価として「行動力」「責任感」「楽しむマインド」「京都LOVE（地域愛）」「前向き力」「論理的思考力」「見通し力」、他者への働きかけとして「コミュニケーション力」「協力を得る力」「伝える力」「多様性の理解」「チームワーク力」さらに地域活性プロジェクトによる成長評価項目として、「地域の理解」を加えた13項目を設定し、学生祭典活動前（事前）、学生祭典活動後（事後）にアンケートを実施した。最大値は5、最小値は1である。今回使用したのは事後のアンケートである。

結果、プログテストでの「協働力」と正の相関となっているルーブリックの成長項目で、1%水準で有意である相関係数が0.5以上の項目は、「行動力」(相関係数 0.554)であった(表1、図5)。したがって、主観的に行動力が身に着いたと考えている人は、客観的に「協働力」が身に着いていると考えられる。なお、昨年度調査では、プログテストでの「協働力」と強い相関を示していたルーブリックの正当項目は「前向き力」であったが、今年度調査では「前向き力」は相関係数0.42となっており、今年度調査と昨年度調査とで異なった結果を示している。

表 1. 主観的な成長とプログテストとの相関関係

(凡例: 1%有意 5%有意 10%有意)

相関係数	アグメント (自己評価)										リテラシー										コピテシー											
	行動力	責任感	楽しまインド	京都LOVE (地域)	前向き力	論理的思考力	京都市場力	コミュニケーション力	協力を得る力	伝える力	多様性の理解	チームワーク力	地域の理解	総合情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	コンピュータ評価	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	粘り強さ	協働力	認知的柔軟性	自信出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力			
行動力	1.000																															
責任感	0.553	1.000																														
楽しまインド	0.364	0.521	1.000																													
京都LOVE (地域)	0.509	0.307	0.024	1.000																												
前向き力	0.467	0.353	0.449	0.299	1.000																											
論理的思考力	0.633	0.644	0.414	0.353	0.499	1.000																										
見通し力	0.476	0.545	0.277	0.275	0.277	0.532	1.000																									
コミュニケーション力	0.516	0.509	0.300	0.496	0.311	0.476	0.524	1.000																								
協力を得る力	0.285	0.245	0.286	0.271	0.271	0.222	0.134	0.292	1.000																							
伝える力	0.408	0.333	0.151	0.385	0.319	0.502	0.250	0.467	0.339	1.000																						
多様性の理解	0.408	0.398	0.250	0.299	0.063	0.387	0.409	0.424	0.124	0.142	1.000																					
チームワーク力	0.599	0.664	0.441	0.332	0.294	0.558	0.486	0.577	0.340	0.317	0.375	1.000																				
地域の理解	0.446	0.294	0.025	0.678	0.136	0.366	0.500	0.474	0.120	0.211	0.440	0.287	1.000																			
リテラシー総合	0.000	0.172	-0.022	-0.060	-0.133	0.048	-0.005	-0.013	-0.134	-0.094	0.269	0.147	-0.183	1.000																		
リテラシー情報収集力	0.025	0.114	-0.012	-0.066	-0.013	-0.027	-0.029	-0.070	-0.171	-0.137	0.131	-0.091	-0.228	0.678	1.000																	
リテラシー情報分析力	-0.040	0.109	0.121	-0.208	-0.071	0.090	0.181	0.018	0.027	-0.062	0.162	0.203	-0.249	0.545	0.342	1.000																
リテラシー課題発見力	0.076	0.216	-0.028	0.110	-0.002	0.246	0.091	0.245	-0.051	0.090	0.114	0.244	0.056	0.387	0.184	1.000																
リテラシー構想力	-0.013	0.118	-0.073	-0.044	-0.114	0.089	-0.003	-0.066	-0.215	-0.050	0.175	0.077	-0.100	0.739	0.530	0.387	1.000															
コンピュータ総合評価	0.605	0.524	0.399	0.406	0.496	0.666	0.481	0.548	0.325	0.485	0.404	0.482	0.417	0.073	0.105	0.133	0.175	1.000														
対人基礎力	0.494	0.398	0.337	0.337	0.423	0.511	0.359	0.521	0.340	0.423	0.302	0.343	0.332	-0.010	0.036	0.134	0.070	0.043	0.914	1.000												
対自己基礎力	0.606	0.446	0.365	0.496	0.509	0.639	0.460	0.483	0.190	0.483	0.393	0.477	0.473	0.039	0.000	0.000	0.218	0.128	0.849	0.685	1.000											
対課題基礎力	0.237	0.289	0.125	0.016	0.143	0.387	0.271	0.143	0.212	0.249	0.242	0.289	0.027	0.313	0.220	0.365	0.188	0.139	0.410	0.285	0.208	1.000										
粘り強さ	0.376	0.383	0.235	0.391	0.292	0.403	0.155	0.502	0.348	0.281	0.301	0.317	0.346	-0.040	-0.108	-0.036	-0.006	-0.042	0.652	0.427	0.248	1.000										
協働力	0.554	0.497	0.459	0.314	0.416	0.493	0.462	0.494	0.385	0.413	0.358	0.475	0.316	0.008	0.058	0.193	0.067	0.112	0.846	0.865	0.668	0.340	0.566	1.000								
粘り強さ	0.299	0.221	0.226	0.215	0.356	0.481	0.302	0.292	0.082	0.349	0.168	0.112	0.242	0.036	0.133	0.132	0.079	0.078	0.758	0.791	0.634	0.178	0.311	0.606	1.000							
感情制御力	0.525	0.368	0.390	0.402	0.516	0.552	0.414	0.439	0.227	0.479	0.331	0.418	0.299	0.163	0.125	0.074	0.169	0.148	0.756	0.632	0.811	0.291	0.361	0.617	0.612	1.000						
自信駆出力	0.594	0.415	0.385	0.473	0.495	0.587	0.400	0.408	0.227	0.382	0.383	0.436	0.432	0.001	-0.047	-0.080	0.217	0.105	0.692	0.582	0.854	0.078	0.358	0.595	0.477	0.610	1.000					
行動持続力	0.395	0.394	0.200	0.372	0.325	0.455	0.332	0.356	0.073	0.357	0.258	0.278	0.360	-0.076	0.069	-0.032	0.171	0.051	0.693	0.516	0.754	0.101	0.234	0.492	0.560	0.494	0.505	1.000				
課題発見力	0.350	0.319	0.077	0.142	0.190	0.459	0.332	0.234	0.095	0.228	0.252	0.336	0.186	0.377	0.352	0.344	0.330	0.248	0.489	0.304	0.404	0.745	0.257	0.307	0.237	0.377	0.235	0.394	1.000			
計画立案力	0.103	0.194	0.063	0.025	0.067	0.266	0.146	0.102	0.214	0.292	0.151	0.204	-0.001	0.208	0.061	0.253	0.045	0.005	0.265	0.201	0.065	0.905	0.223	0.224	0.102	0.198	-0.021	-0.045	0.524	1.000		
実践力	0.239	0.333	0.138	-0.121	0.042	0.279	0.279	0.027	0.106	0.116	0.230	0.348	-0.097	0.301	0.138	0.278	0.202	0.276	0.253	0.132	0.158	0.717	0.130	0.271	-0.022	0.152	0.150	0.001	0.493	0.532	1.000	

※: 相関係数 0.1以上は有意 (p<0.05)

図 5. 主観的な成長「行動力」とプログテストとの相関関係



① 自己評価：個人 <行動力>

相関係数

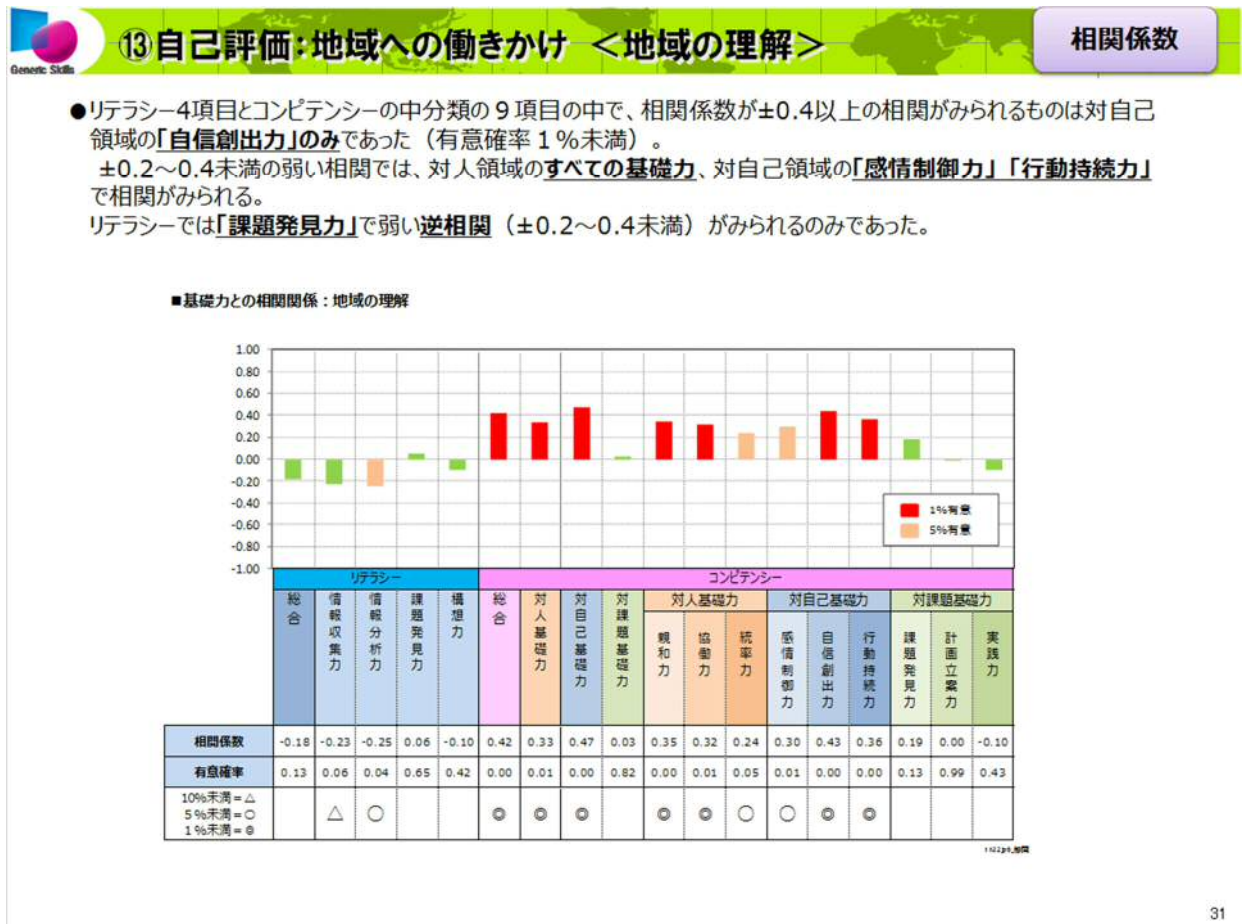
- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「親和力」「協働力」「感情制御力」「自信創出力」「行動持続力」であった（いずれも有意確率1%未満）。±0.2～0.4未満の弱い相関では、対人領域の「統率力」、対課題領域の「課題発見力」で相関がみられる。リテラシーはすべて相関がみられない。

■基礎力との相関関係：行動力



一方、地域活性プロジェクトによる成長評価項目として今回加えた「地域の理解」とプログテストとの関係については（表 1、図 6）、相関係数が 0.4 以上の正の相関がみられるのはコンピテンシー対自己基礎力の「自信創出力」（相関係数 0.432）のみであった。したがって、地域活性プロジェクトは、主観的ながんばり度合いや主観的な成長評価、客観的な成長評価と強い関係にないようである。

図 6. 主観的な成長「地域の理解」とプログテストとの相関関係



h. 客観的な成長項目の伸長と主観的な評価項目との関係性

4章(1)のeで述べたように、プログテストを2015年度・2016年度両方受検した受験者は34名である。プログテストでは、リテラシー、コンピテンシーとも、事前（初期値）のスコアが低いほど、事後の伸び幅が大きい傾向がある。これまで述べてきた傾向を解釈するためには、変化量の分析の際にはこの初期値の影響を除去して考える必要がある。

初期値の影響を除く方法として、プログテストの経年変化のデータによって、前回レベルから今回レベルを予測するモデルを作成し、各レベル間の変化量（実測値）と、モデルから求められる想定変化量の差を「望ましさ」と考え、各レベル間のウェイトを設定した。このウェイトを[Progress Index]（以下PI値）と呼ぶ（文末資料1参照）。

このPI値によるプログテストスコアと主観的な評価項目との相関については(表2、図7)、「学生祭典」と相関係数0.4以上で1%水準の正の相関を示したのはコンピテンシーの「対人基礎力」(相関係数0.620)である。これはプログテストの伸長を考慮しない先述eの結果を補足するものとなっており、学生祭典はプログスコアの伸長の高い人にとっても低い人にとっても、「対人基礎力」を伸ばすことに関係していると考えられる。

一方、成長の自己評価(ループリックアンケート)と相関係数0.4以上で1%水準の正の相関を示したのは「楽しむマインド」とコンピテンシーの対人基礎力、「論理的思考力」「地域の理解」と対自己基礎力である。これは「楽しむマインド」が強く伸びている人ほど対人基礎力スコアが、「論理的思考力」「地域の理解」が強く伸びている人は対自己基礎力スコアが伸びていることを示している。

これはプログテストの伸長を考慮しない先述gの結果について、特に「地域の理解」の伸長と「自己基礎力」(「感情抑制力」「自信創出力」「行動持続力」)とより強い関係になっていることが考えられる。すなわち、「地域の理解」が伸びた人は「自己基礎力」も伸ばしているようである。

図 7. 各種活動の努力度や主観的な成長と、伸長を考慮したプログテストとの相関関係

3. 各種活動の努力度と自己評価、基礎力の伸長の相関のサマリー 相関係数

基礎力伸長度 (PI値) との
有意項目のまとめ一覧

1%有意
5%有意
10%有意

※赤字 = 相関係数はプラス
※青字 = 相関係数がマイナス (逆相関)

相関係数=±0.4以上 : ◎、±0.2~0.4未満 : ○

		リテラシー		コンピテンシー			
		総合	総合	対人	対自己	対課題	
①成長の 自己評価 (事後)	行動力		○	○	○	○	
	責任感		◎	◎	◎	◎	
	楽しむマインド		◎	◎	◎		
	京都LOVE (地域愛)				◎		
	前向き力						
	論理的思考力		◎	◎	◎	◎	
	見通し力	○	◎		◎	◎	
	コミュニケーション		◎	◎	◎		
	協力を得る力	○	◎	◎			
	伝える力				◎		
	多様性の理解	○			◎	◎	
	チームワーク力		◎	◎	◎	◎	
	地域の理解		◎		◎		
	②各種活動の 努力度	授業 (講義・演習等)	○			◎	
課題解決型学習		○	◎	◎		◎	
学内のイベントの企画・運営等				◎	◎		
部活動・サークル		○	◎	◎		◎	
インターシブ・実習						◎	
ボランティア学習 (大学主催の地域貢献活動・社会活動)			◎		◎	◎	
アルバイト						◎	
学生祭典 (大学コンソーシアム京都の事業)			◎	◎	◎		
ボランティア・NPO活動 (大学とは関係のない自主的活動)		○	◎		◎		
友人や家族との交流						◎	
家族との交流や世話						◎	
趣味・習い事			◎		◎	◎	
地域の活動 (まつり・清掃・防災・防犯活動など)			◎		◎	◎	

※相関行列表は項目数が多いため、別途納品

52

i. まとめ

以上、プログテストによる客観的成長項目、ループリックアンケートによる主観的評価項目、学習活動経験アンケートによる学生祭典活動の主観的ながんばり度合いの関係性について分析を行った結果、京都学生祭典実行委員会活動に多くの労力を費やしている今年度の学生は、①客観的には「協働力」が主観的には「行動力」が上がっている。②地域活性プロジェクトは、全体としては、主観的ながんばり度合いや主観的な成長評価、客観的な成長評価と強い関係がない。③一方、地域活性プロジェクトは、伸長を考慮したプログテストによる分析では対人基礎力が伸びている、という結果となった。この結果をどのように解釈すればいいのかについて、次に質的調査の分析を展開したい。

(2) 質的調査の結果

a. 調査の概要

本調査のうち質的調査にあたる部分は、大きく二つのインタビューに分けられる。いずれも目的は、第 14 回 (2016 年度) から祭典の事業となった「地域活性プロジェクト」(以下、「地活」) が実行委員の成長実感にどのようにつながっているかを分析・考察するためのものである。

インタビューの一つは、地活の連携先となった地域側への地活終了後のインタビューである。伏見企画の伏見港公園 (大東・笠井、2016 年 6 月 23 日) と伏見大手

筋商店街（森・大東・笠井、2016年11月4日）、そして伏見・出町柳のいずれにもかかわった京阪ホールディングス株式会社（大東・笠井）の3件を実施した（括弧内はインタビュアーで先頭が中心的な聞き手。質問作成はいずれも大東）。インタビューでは、地域側が抱える課題やそれに対して期待した学生の役割、学生の成長への印象や希望などを中心に話を聞いた。

もう一つは、地活にかかわった実行委員へのインタビューである。事務局がインタビュー対象者を選定し、各対象者について1回ないし2回のインタビューを行った。1回目のインタビューは、2016年の8月4日、8月5日の2日に分け、20名に対して実施した。2回目のインタビューは、2016年の11月23日、12月1日、12月3日、12月8日の4回に分け、19名に対して実施した。2回のインタビューともに対象者となったのは、第14回実行委員会の四役4名と、第15回実行委員長1名の計5名である。

実行委員への1回目のインタビューは、二つの地活をいずれも終えた後で、本祭（2016年10月9日）実施よりは前に実施し、2回目のインタビューは本祭実施後に終えた点が大きな違いである。インタビューでは、地活の位置づけや、地活の翌年度への継続への意見、地活で成長したと思える点、地活以外に地域のことを考えるきっかけとなった祭典関連事業などについて聞いた。

本節では、以上のインタビューに基づく質的調査により、①京都学生祭典が実行委員と地域にとって両者をつなぐ場となったか、②京都学生祭典が学生にとって地域に根差した学びの機会になったかを考察する。

b. 地活連携先へのインタビュー調査

地活連携先については、それぞれに状況や関係性が異なり、まとめるのは困難であるため、取材した3件をX、Y、Z（順不同）としてそれぞれにまとめる。

【X】前年度から「京炎そでふれ」の会場として場を提供していたため、京都学生祭典との関係性が築けていた。地活に際しては、学生に協力しつつ、学生にも協力してもらい「フィフティフィフティの関係」を想定した。特に、施設の指定管理者として、マンネリ化しがちな自主事業に学生が参画し力を貸してくれることを期待した。また、ふだんの利用者に大学生が少ないので、大学生が来るための火付け役になってほしいと考えた。最終的には学生側で連絡の窓口となる人が固定化したためよかったが、当初は、担当する学生の不在等により何度も同じ話をしなければならぬことも多かった。当日は、部署ごとの割り振りがはっきりしすぎている感もあったものの、それぞれが生き生きと場を担当し、次の地活への自信につながったと思う。

【Y】前年度から継続的に京都学生祭典と連携してきた。とはいえ、今回は地活という新しい試みであったため、これまでの関係性が築けていない新しい学生たちであり、その学生たちの成長について聞かれてもわかりづらい。地域として何か学生に解決してほしい課題があるわけではないし、学生が入ると調整すべきことが増えて労力は倍になる。ただし、学生たちの取り組みが一生懸命で、見ていて気持ちよく、応援してやりたくなる。一生懸命な学生をお披露目したいと考えた。過去の実行委員が遊びに来てくれたのも、現役の実行委員たちがプライベートで来てくれるようになったのも嬉しい。大きな課題は2点。一つは、神輿の担ぎ方が素人であり、

警備もプロに研修を受けたほうがいと不安を抱いたこと。もう一つは、企画が当日に間に合うようにという計算で組まれていたことで、本来は広報活動のために当日の1か月前には組んでほしかった。

【Z】前年度に地活とは異なる取り組みで京都学生祭典と連携していた。学生との連携は地域活性化を期待している。今回の実行委員らに初対面のときから、挨拶や言葉遣いにも好印象を持てた。アイデアのヒントになるようなことは言ったが、そこから考えをふくらませて実現したのは学生たちの力。当初は先を見越した発言ができていないことなどに不安を感じたが、徐々にそうした不安は払しょくされるとともに、学生たちが「共同して進めていこう」という考え方に变化したこともみてとれた。準備期間を通じて、いろいろと気になることはあったはずだが、今となっては思い出せないくらいのことが多い。ただし、上に立つ者は、すべてを自分でやろうとせずに役割分担をして責任の所在を明らかにすることは重要だ。今回は責任があいまいだった。また、企画書がばらばら過ぎるので、一つにまとめられるとよい。自分の組織に京都学生祭典の学生たちのことを知ってもらえてよかったと思えるほどに学生たちに愛着を感じている。

以上の3件のインタビューから、いくつかのことが考察できる。まず、地活についての認識はそれぞれ異なる。Xが自主事業のマンネリ化から抜け出すため、Zが地域活性化のために学生のアイデアや実行力を求めたのに対し、Yは学生が一生懸命やることを応援してやりたいが特に個別の課題があるわけではない。次に、終了後にも課題が残る者の、いずれの場合も学生の成長は連携先に好意的に受け止められている。そして、アイデアだけではなく、大学生が通ってくれること自体にも喜びが表明され、実行委員との顔の見える関係を通じて、連携先にも京都学生祭典への愛着が生まれていることは興味深い。

c. 実行委員へのインタビュー調査

実行委員による地活の評価や位置付けには、いくつかの傾向が見られ、個々人によって異なるとするほどのばらつきはなかった。

まず、地活のことをどのようなものとして認識しているかということについては、四つの観点が示された。すなわち、①地域活性化、②京都への貢献、③祭典の広報、④本祭のイベントである。いずれも誤りとは言えず、地活には実際にそれぞれの効果があったと思われるが、実行委員の間に共通の認識が形成されていなかったことに注目ができる。これは、そもそも地活が誰によってどのような目的で始められたことかを四役や執行部以外の実行委員が知る機会が少なかったことによる。また、実際に前年度実行委員や担当職員らによって提案され、四役も自分たちが意思決定にかかわっていないということも、共通認識がなかったことの原因である。

「本来の」位置づけについては共通認識がないものの、実行委員の回答を観察する限り、③祭典の広報が対外的な「正しい説明」として一定認識されていたのではないだろうか。「京都学生祭典のことは、本祭の地域の人たちには知ってもらえているが、それ以外の地域では知名度が低い。地活を行うことで祭典について知ってもらうことができる」という回答が典型例であり、これに対応して「実際に本祭当日、地活で知り合った地域の方が来場され、声を掛けて下さったのが嬉しかった」というエピソードが出てくる。

対外的な正しい説明ではなく、インタビューした実行委員たちの多くにとって「本音」としての地活の位置づけは、④本祭のプレイベントであったようだ。あるいは、本祭の予行演習として、とってよいかもしい。これまでは、新実行委員らにとって本祭が初めての本番であった。地活は本祭とは異なる点も多いが、企画を立て実行するという一連の流れを実際に体験できる。実行委員は口々に「段取りの重要性を地活で認識できた」、「地活があったから本祭で気をつけなければならないことがわかった」と予行演習としての効果を強調した。

もちろん、実行委員らは①～③の位置付けも同時に保っている。つまり、道具的に地活を利用したわけではなく、地域への真摯な態度をもっていた。そのため、予行演習としての要素もあったということをもって実行委員を批判するにはあたらない。

とはいえ、プレイベントとしての要素が色濃く印象に残ったことは、地域との連携自体の意義に向ける反省を相対的に薄くした。もちろん、個別のエピソードとしては、地活の当日にいろいろな方に声を掛けられたりして嬉しかったとか、準備段階で厳しさと温かさをもって地域や企業の方達が接してくれたことへの感謝、あるいは自分たちが地域で活動をする際に必要となる責任感など、地活ならではの学びも語られたが、それらが実行委員会として共有・反省された様子はない。

祭典の活動の中で、地域について意識する機会や地域と接する機会として何を一番に挙げられるかを聞いたところ、ほぼすべての実行委員は年間交流委員会が主催する各種のイベントでの地域との交流を挙げた。

今後のことについて、地活自体は継続すべきだと回答する者が多かった。ただし、その理由は、地域が活性化されるとか、支えてもらっている京都に恩返しができるからとか、あるいは、本祭への地活実施地域からの来場者数が増えるとか、①～③の認識とかかわりのあるものではない。あくまで、④に関連して、企画～実施の一通りの体験機会であるプレイベント=予行演習として、ぜひ開催すべきという視点である。今年度は2回の地活が行われたが、特に出町柳での地活は日程上、本祭の準備と重複しており、実行委員にとって楽しくも大きな負担を強いた。そのため、予行演習は一度やれば十分という観点からも、「地活は継続すべきだが、一度でよい」という判断が合理的に導き出される。

また、地活を通じて成長したこと、学んだこと——地域とかかわりをもつからこそ気付いたこと——について、いくつかの意見が聞けた。たとえば、自分たち実行委員にとっては「イベント」の場として特定の日にかかわりを持つだけであっても、地域の人には「日常」の場であるという気づきが挙げられる。だからこそ、地域の文脈においては実行委員が「やりたい」と考えてもできないことも多く、そうした現実的な制約に気づき、乗り越えるための柔軟な対応や発想の必要性を学んだようだ。また、連携先の人たちが地域への強い愛着をもっていることに触れ、自らも連携先の地域や、自身の故郷や下宿先への関心を深めたという実行委員もいた。

d. まとめ

地活以外で実行委員を経験したことによる成長について、今年度の調査でも聞き取りを行ったが、回答に特段の変化は観察されなかった。たとえば、段取りの重要性への気づき、人と話すことへの慣れ、多様な価値観の受容などが挙げられる。

さて、特に地活に関して質的調査の結果からわかることは、連携先と実行委員の双方にとって、①地活の意義が明確ではなかった、②課題は残るものの学生の成長の機会になったこと、③互いへの愛着を醸成する機会になったことである。

量的調査の結果、「地域活性プロジェクトは、全体としては、主観的ながんばり度合いや主観的な成長評価、客観的な成長評価と強い関係がない。一方、地域活性プロジェクトは、伸長を考慮したプログテストによる分析では対人基礎力が伸びている」ことがわかっている。

地活だからこそ学んだこと（地域にとっては「日常の場」であることや、場に応じた柔軟な対応が要求されること）は、本プロジェクトの量的調査によっては観察が困難な要素である。また、観察が比較的容易なその他の成長は、例年も本祭によってもたらされていたと考えられるが、プレイベントとしての性格を持つ地活によって成長が早めに促された可能性はある。到達した成長の度合いは例年と変わらないが、そのうち対人基礎力については地活によって例年よりも早い段階で獲得されたという解釈が可能であろう。

また、個人としての成長評価にはつながらないものの、地活を経ることで本祭への段取りがはかどり、組織・事業としての質が例年より良くなったとも推察できる。これは、本プロジェクトの調査方法の限界を示す点でもあり、組織・事業としての別の評価枠組みが要求される。

5. 結果と考察

量的調査と質的調査の内容およびその考察は、それぞれすでに述べられているので、ここでは、全体的な考察について述べ、事業改善に向けての提言につなげたい。とくに今年度新たに取り組んだ「地域活性プロジェクト」についての取り組みを中心に考察し、京都学生祭典の活動が、地域に根ざした活動として、また地域に根ざした PBL 活動として定着および展開できる可能性について検証する。

(1) プログテストの結果について

プログテストの結果をみると、学生たちは、対人基礎力の「協働力」が伸びていた。これは 2015 年度も同様であったが、2015 年度の自己評価では「前向き力」と関連していたものが、2016 年度は「行動力」とより関係していることがわかった。そのような結果となった要因を明確化するのは難しいが、地域活性プロジェクトなどで、より多くの場面での活動＝行動を求められることがあり、結果として実行委員の行動力の向上につながったといえるのではないかと。

(2) 地域活性プロジェクトの課題と意義

地域活性プロジェクトは、2015 年度委員がその方針を打ち出し、事務局を通じて地域パートナーの募集要項なども作成された。その意味では、2016 年度実行委員、執行部メンバーであったとしても、その狙いや意義について理解が深められ、共有される機会がないまま、地域での活動が開始された。

そのため、地域活性プロジェクトの内容や進め方については、地域のステークホルダーの意向に依存する要素が大きくなり、地域サイドが明確な狙いを持っていた場合にはプロジェクトの成果についての満足度は高かったが、そうでない場合には地域サ

イドの受け止め方にもばらつきがあった。

学生サイドにとっては、地域での活動が一定の意義を有することは理解されていたが、従来の学生祭典活動に加えて地域の多様な主体との連携という複雑な調整能力が求められたこと、またPBLとして取り組むには短期間で助言を仰げる大人の存在がなかったことで、学生たちの課題克服や成果達成に困難が伴い、達成感よりも負担感が大きくなってしまった部分が見受けられた。

もちろん、大勢の学生たちが地域に出かけ活動を展開したことは、これまでとは違う人々との繋がりや地域での認知度を得ることができたことに間違いない。

ただ、今後は、全体の活動量、地域との関係の構築方法や活動の進め方などを含め改善が求められる。



大学コンソーシアム京都 御中

PROG×学生祭典参加学生アンケート 分析報告書

2017.3.31
株式会社リアセック

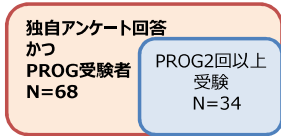


CONTENTS

分析の概要	3
1. 成長の自己評価とPROGスコア（事後）の関係	
成長の自己評価結果とPROGスコア（事後）の相関のサマリー （相関行列は別送）	5
クロス集計と相関係数（①a1:行動力～⑬b6:地域の理解）	6
2. 各種活動の努力度とPROGスコア（事後）の関係	
各種活動の努力度とPROGスコア（事後）の相関のサマリー （相関行列は別送）	33
相関係数（授業～地域の活動）	34
3. 各種活動の努力度と、自己評価、基礎力の伸長の関係	
分析の前提 —PI値の導入	48
各種活動の努力度と自己評価、基礎力の伸長の相関のサマリー （相関行列は別送）	52
4. コンピテンシー総合（事前）の上位下位別基礎力の伸長	
上位下位別基礎力の伸長（PI値）の比較	54
平均差の検定	55



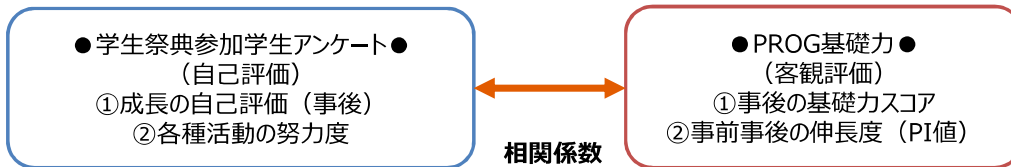
■集計対象サンプル：N = 68



※PI値の集計対象はPROGを2回以上受験したN=34

■分析概要：

- ①独自アンケートによる学生の成長の自己評価（個人a1.行動力～a7.見通し力、他社への働きかけb1.コミュニケーション力～b6.地域の理解）とジェネリックスキルの客観指標であるPROG基礎力（事後のスコアと伸長度）との関連性の検証を行う
- ②独自アンケートの大学生生活での努力度Q5（自己評価：1 = とても努力した～6 = まったく努力しなかった）とPROG基礎力（事後のスコアと伸長度）との関連性の検証を行う



1. 成長の自己評価とPROGスコア(事後)の関係

- 成長の自己評価とPROG基礎力（客観評価）の関係性をみるために、相関係数を算出した。



成長の自己評価結果とPROGスコア(事後)の相関のサマリー

相関係数

PROGスコア(事後)との
有意項目のまとめ一覧

相関係数=±0.4以上: ◎、±0.2~0.4未満: ○

1%有意
5%有意
10%有意

※赤字=相関係数はプラス
※青字=相関係数がマイナス(逆相関)

リテラシー 総合	コンピテンシー			
	総合	対人	対自己	対課題

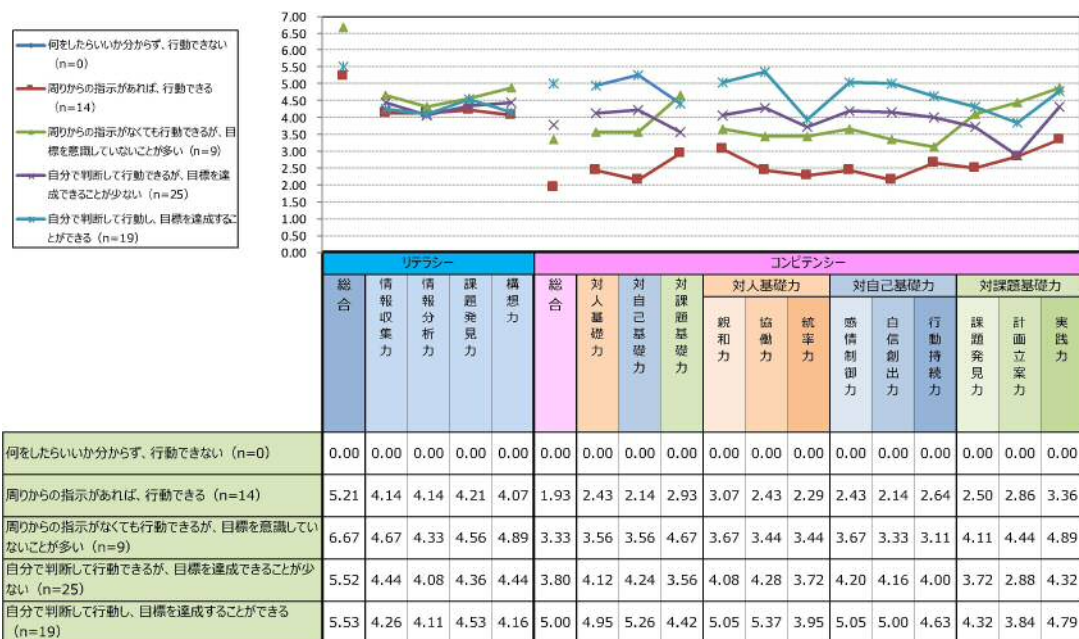
※相関行列表は項目数が多いため、別途納品



①自己評価:個人 <行動力>

クロス集計

■ a1: 行動力×PROG基礎力



※無回答を除く

1011_a1×基礎力



①自己評価:個人 <行動力>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「**親和力**」「**協働力**」「**感情制御力**」「**自信創出力**」「**行動持続力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**統率力**」、対課題領域の「**課題発見力**」で相関がみられる。リテラシーはすべて相関がみられない。

■基礎力との相関関係：行動力



1012_01_結果

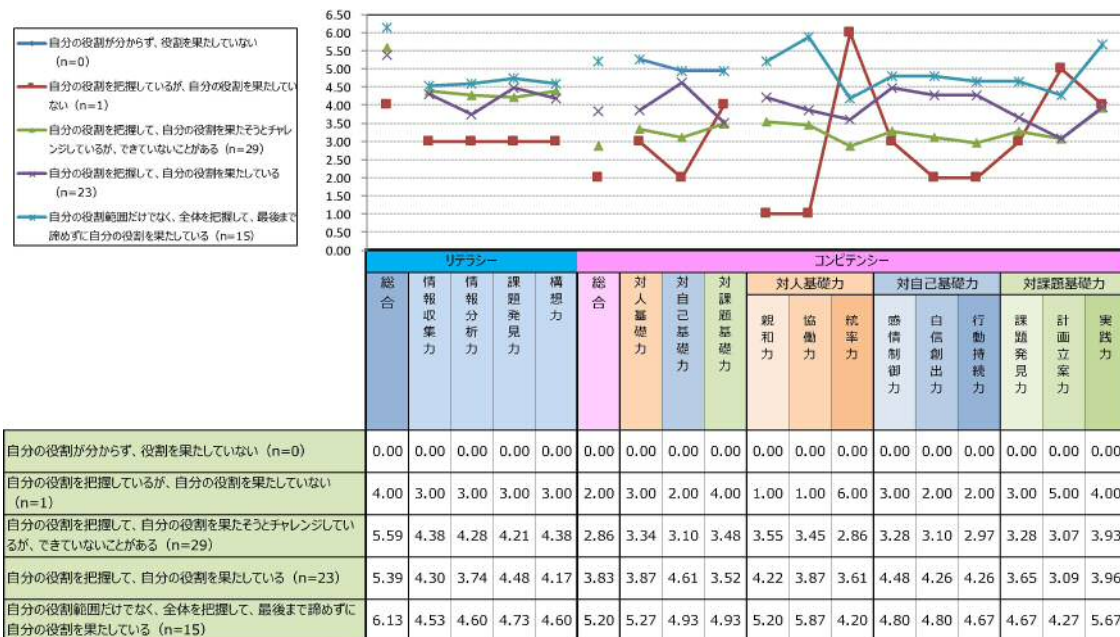
7



②自己評価:個人 <責任感>

クロス集計

■a2：責任感×PROG基礎力



※無回答を除く

1021_a2+基礎力

8

②自己評価:個人 <責任感> 相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「**協働力**」、對自己領域の「**自信創出力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**親和力**」、對自己領域の「**感情制御力**」「**行動持続力**」、対課題領域の「**課題発見力**」「**実践力**」で相関がみられる。
リテラシーはすべて相関がみられない。

■基礎力との相関関係：責任感



③自己評価:個人 <楽しむマインド> クロス集計

■a3：楽しむマインド×PROG基礎力





③自己評価:個人 <楽しむマインド>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「**協働力**」、對自己領域の「**感情制御力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、對自己領域の「**自信創出力**」で相関がみられる。
リテラシーはすべて相関がみられない。

■基礎力との相関関係：楽しむマインド



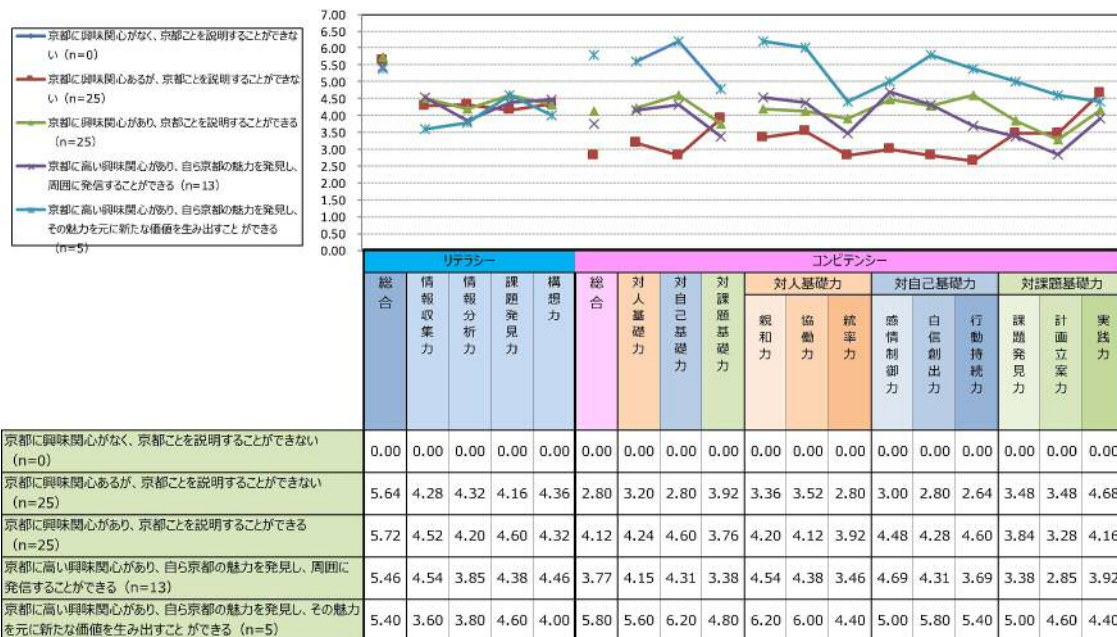
10212 2020



④自己評価:個人 <京都LOVE(地域愛)>

クロス集計

■a4：京都LOVE（地域愛）×PROG基礎力



※無回答を除く

1041_04×基礎力



④自己評価:個人 <京都LOVE(地域愛)>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対自己領域の「感情制御力」「自信創出力」であった（いずれも有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「親和力」「協働力」、対自己領域の「行動持続力」で相関がみられる。
リテラシーはすべて相関がみられない。

■基礎力との相関関係：京都LOVE（地域愛）



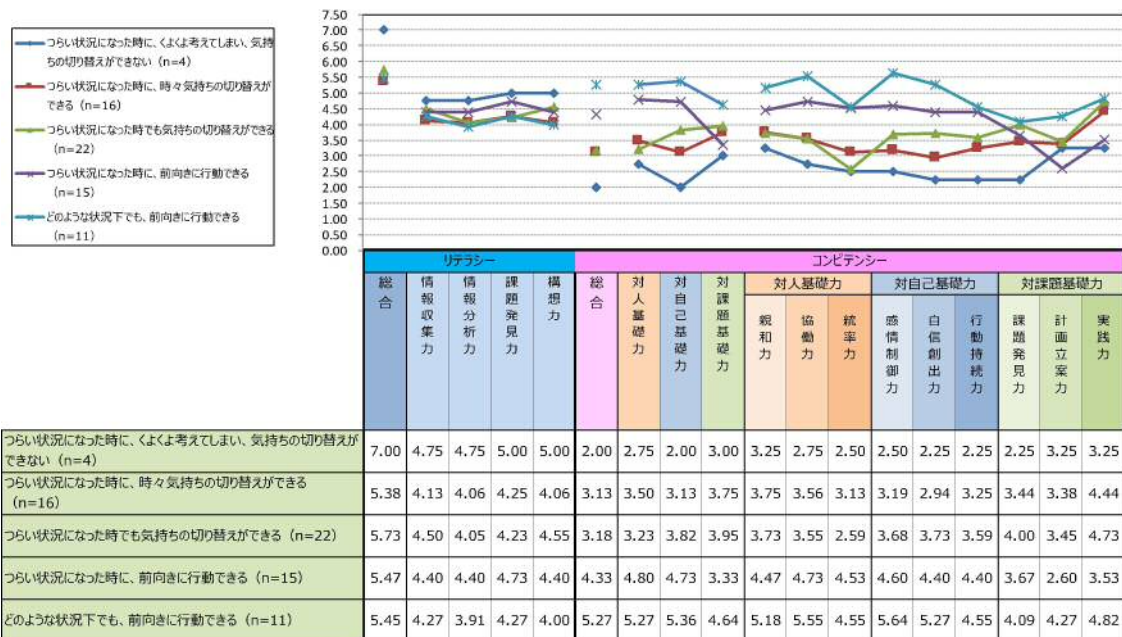
13



⑤自己評価:個人 <前向き力>

クロス集計

■a5：前向き力×PROG基礎力



※無回答を除く

1051_a5×基礎力

14



⑤自己評価:個人 <前向き力>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「**協働力**」、対自己領域の「**感情制御力**」「**自信創出力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**親和力**」「**統率力**」、対自己領域の「**行動持続力**」で相関がみられる。
リテラシーはすべて相関がみられない。

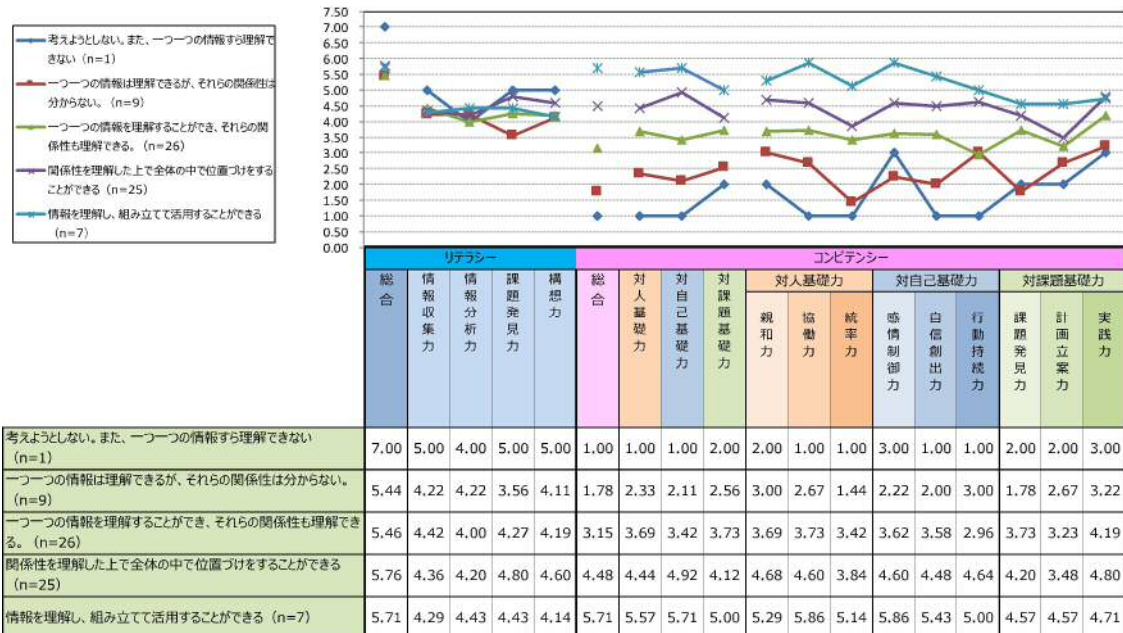
■基礎力との相関関係：前向き力



⑥自己評価:個人 <論理的思考力>

クロス集計

■a6：論理的思考力×PROG基礎力



※無回答を除く

1061_g6×基礎力



⑥自己評価:個人 <論理的思考力>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域、対自己領域の**すべての基礎力**、対課題領域の「**課題発見力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、対課題領域の「**計画立案力**」「**実践力**」で相関がみられる。
コンピテンシーではすべて相関が見られる一方、リテラシーでは「**課題発見力**」で弱い相関（±0.2~0.4未満）がみられるのみであった。

■基礎力との相関関係：論理的思考力



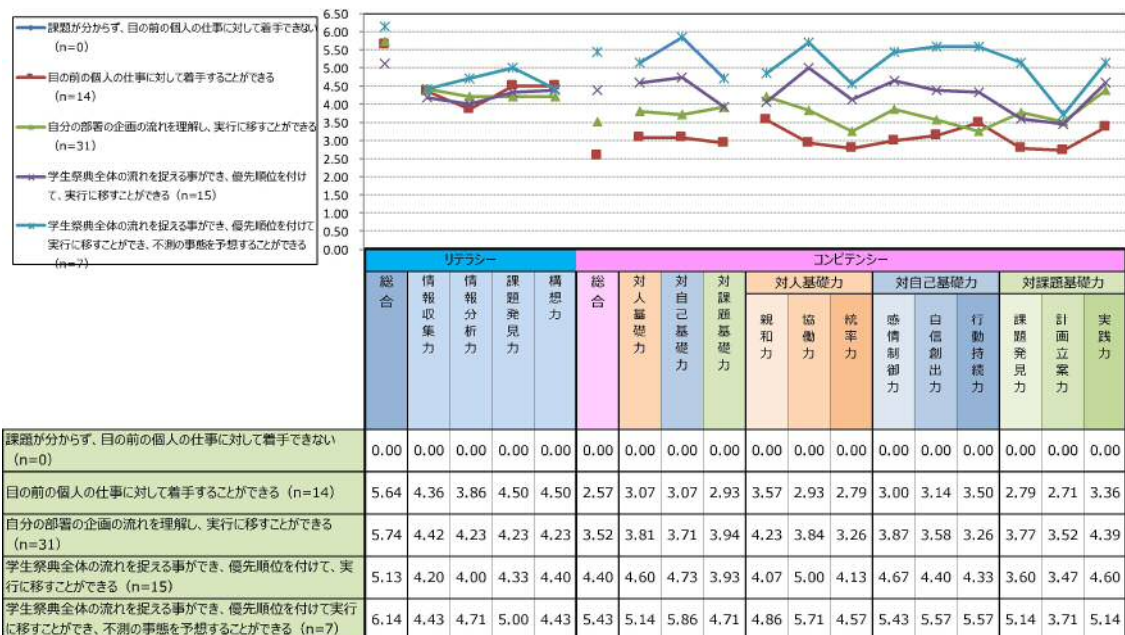
1082_04_総集



⑦自己評価:個人 <見通し力>

クロス集計

■a7：見通し力×PROG基礎力



※無回答を除く

1071_07*基礎力



⑦自己評価:個人 <見通し力>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「**協働力**」、対自己領域の「**感情制御力**」「**自信創出力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**統率力**」、対自己領域の「**行動持続力**」、対課題基礎力の「**課題発見力**」「**実践力**」で相関がみられる。
リテラシーはすべて相関がみられない。

■基礎力との相関関係：見通し力



19



⑧自己評価:他者への働きかけ <コミュニケーション力>

クロス集計

■b1：コミュニケーション力×PROG基礎力



※無回答を除く

1081_b1×基礎力

20



⑧自己評価:他者への働きかけ <コミュニケーション力>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「**親和力**」「**協働力**」、對自己領域の「**感情制御力**」「**自信創出力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**統率力**」、對自己領域の「**行動持続力**」、対課題基礎力の「**課題発見力**」で相関がみられる。リテラシーでは「**課題発見力**」で弱い相関（±0.2~0.4未満）がみられるのみであった。

■基礎力との相関関係：コミュニケーション力



⑨自己評価:他者への働きかけ <協力を得る力>

クロス集計

■b2: 協力を得る力×PROG基礎力



※無回答を除く

1091_b2×基礎力



⑨自己評価：他者への働きかけ <協力を得る力>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものはひとつもなかった。
- ±0.2～0.4未満の弱い相関では、対人領域の「親和力」「協働力」で相関がみられる。
- リテラシーはすべて相関がみられない。

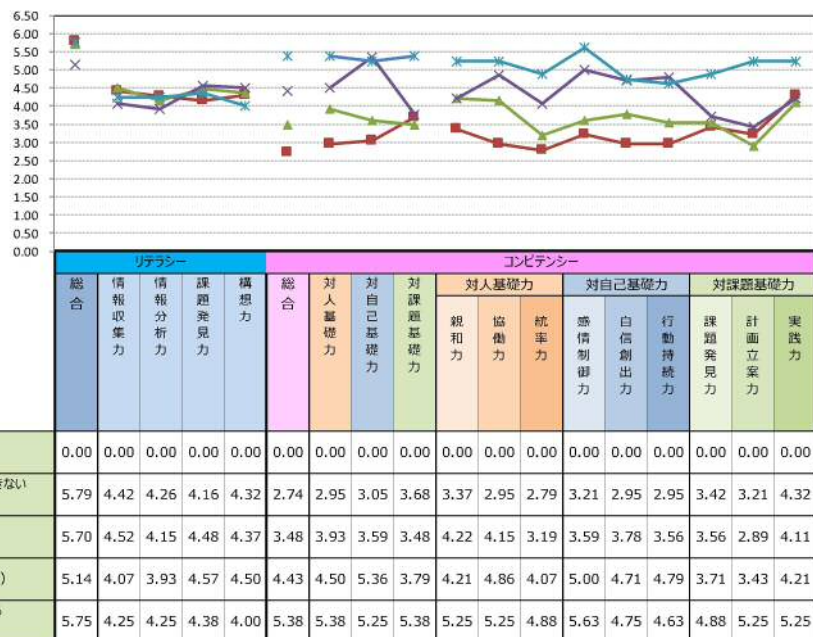
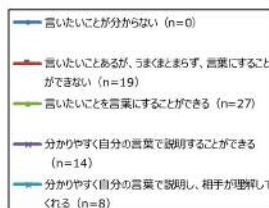
■基礎力との相関関係：協力を得る力



⑩自己評価：他者への働きかけ <伝える力>

クロス集計

■b3：伝える力×PROG基礎力



※無回答を除く

1101_b3×基礎力



⑩自己評価:他者への働きかけ <伝える力>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「**協働力**」、對自己領域の「**感情制御力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**親和力**」「**統率力**」、對自己領域の「**自信創出力**」「**行動持続力**」、対課題基礎力の「**計画立案力**」で相関がみられる。
リテラシーはすべて相関がみられない。

■基礎力との相関関係：伝える力



1102_b3_相関

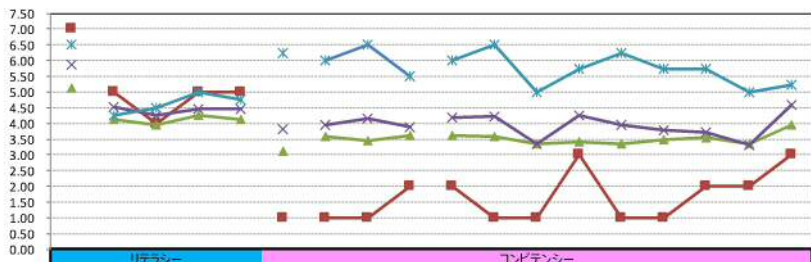


⑪自己評価:他者への働きかけ <多様性の理解>

クロス集計

■b4: 多様性の理解×PROG基礎力

- チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場に関心がない (n=0)
- チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場に関心があるが、理解できない (n=1)
- チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場に関心があり、理解をしているが、それを踏まえて行動することができない (n=24)
- チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場を理解して、行動することができる (n=38)
- チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場を理解し、新たな価値を創造することができる (n=4)



	リテラシー					コンピテンシー												
	総合	情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	総合	対人基礎力	對自己基礎力	対課題基礎力	対人基礎力			對自己基礎力			対課題基礎力		
										親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場に関心がない (n=0)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場に関心があるが、理解できない (n=1)	7.00	5.00	4.00	5.00	5.00	1.00	1.00	1.00	2.00	2.00	1.00	1.00	3.00	1.00	1.00	2.00	2.00	3.00
チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場に関心があり、理解をしているが、それを踏まえて行動することができない (n=24)	5.13	4.13	3.96	4.25	4.13	3.13	3.58	3.46	3.63	3.63	3.58	3.33	3.42	3.33	3.50	3.54	3.33	3.96
チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場を理解して、行動することができる (n=38)	5.87	4.53	4.26	4.45	4.45	3.82	3.95	4.16	3.89	4.18	4.21	3.34	4.26	3.95	3.79	3.71	3.32	4.58
チームメンバー・産学公地域・来場者など考えや立場を理解し、新たな価値を創造することができる (n=4)	6.50	4.25	4.50	5.00	4.75	6.25	6.00	6.50	5.50	6.00	6.50	5.00	5.75	6.25	5.75	5.75	5.00	5.25

※無回答を除く

1111_b4_相関



⑪自己評価:他者への働きかけ <多様性の理解>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものはひとつもなかった。
- ±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**親和力**」「**協働力**」、対自己領域の**すべての基礎力**、対課題**基礎力の「課題発見力」**で相関がみられる。
- リテラシーはすべて相関がみられない。

■基礎力との相関関係：多様性の理解



1112M-相関



⑫自己評価:他者への働きかけ <チームワーク力>

クロス集計

■b5：チームワーク力×PROG基礎力



※無回答を除く

1121_95*基礎力



⑫自己評価:他者への働きかけ <チームワーク力>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは対人領域の「**協働力**」、對自己領域の「**感情制御力**」「**自信創出力**」であった（いずれも有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**親和力**」、對自己領域の「**行動持続力**」、対課題基礎力の「**課題発見力**」「**実践力**」で相関がみられる。
リテラシーでは「**課題発見力**」で弱い相関（±0.2~0.4未満）がみられるのみであった。

■基礎力との相関関係：チームワーク力



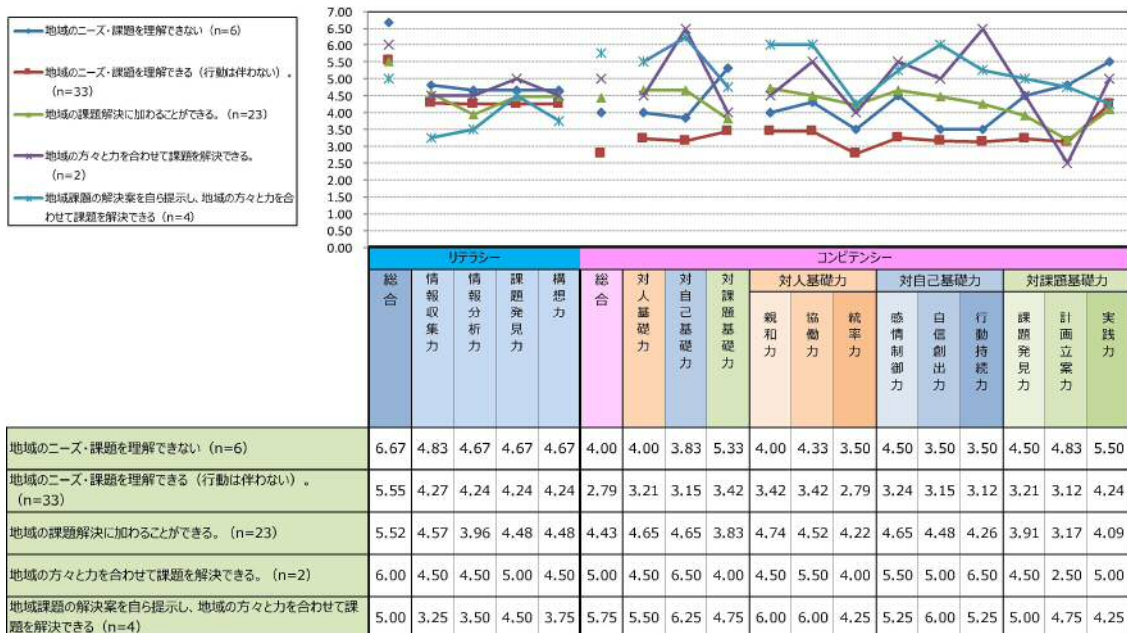
29



⑬自己評価:地域への働きかけ <地域の理解>

クロス集計

■b6：地域の理解×PROG基礎力



※無回答を除く

1131_05<基礎力>

30



⑬自己評価:地域への働きかけ <地域の理解>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは對自己領域の「**自信創出力**」のみであった（有意確率1%未満）。
±0.2～0.4未満の弱い相関では、対人領域の**すべての基礎力**、對自己領域の「**感情制御力**」「**行動持続力**」で相関がみられる。
リテラシーでは「**課題発見力**」で弱い**逆相関**（±0.2～0.4未満）がみられるのみであった。

■基礎力との相関関係：地域の理解



113234_情報



2.各種活動の努力度とPROGスコア(事後)の関係

- 各種活動の努力の度合い（自己評価）とPROG基礎力（客観評価）の関係性をみるために、相関係数を算出した。



各種活動の努力度とPROGスコア(事後)の相関のサマリー

相関係数

- 各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」=+6点～「全く努力しなかった」=+1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。

PROGスコア(事後)との 有意項目のまとめ一覧

1%有意
5%有意
10%有意

※赤字=相関係数はプラス
※青字=相関係数がマイナス(逆相関)

相関係数=±0.4以上: ◎、±0.2~0.4未満: ○

②各種活動の 努力度	授業(講義・演習等) 課題解決型学習 学内のイベントの企画・運営等 部活動・サークル インターンシップ・実習 ボランティア学習(大学主催の地域貢献活動・社会活動) アルバイト 学生祭典(大学コンソーシアム京都の事業) ボランティア・NPO活動(大学とは関係のない自主的活動) 友人や家族との交流 家族との交流や世話 趣味・習い事 地域の活動(まつり・清掃・防災・防犯活動など)	リテラシー	コンピテンシー			
		総合	総合	対人	対自己	対課題
		○			○	
						○
		○				○
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	○
		○		○		○
			○	○		○

※相関行列は項目数が多いため、別途納品

33

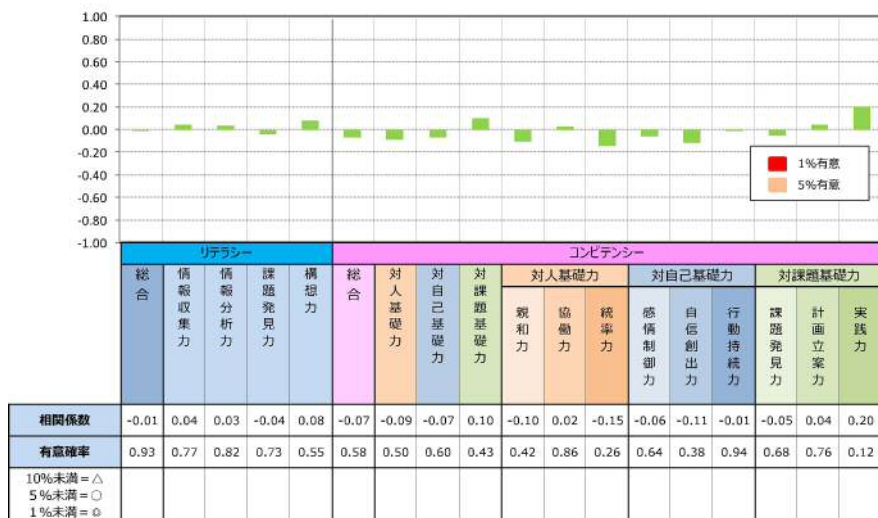


2. 各種活動の努力度と基礎力<授業(講義・演習等)>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、すべての基礎力で相関がみられない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：授業(講義・演習等)(経験者/N=62)



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」=+6点～「全く努力しなかった」=+1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。

34



2. 各種活動の努力度と基礎力＜課題解決型学習＞

相関係数

●リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、すべての基礎力で相関がみられない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：課題解決型学習（経験者／N=39）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力＜学内のイベントの企画・運営等＞

相関係数

●リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、すべての基礎力で相関がみられない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：学内のイベントの企画・運営等（経験者／N=25）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力＜部活動・サークル＞

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中では、リテラシーの「課題発見力」で弱い逆相関が見られる（有意確率5%未満）。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：部活動・サークル（経験者／N=36）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力＜インターンシップ・実習＞

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、すべての基礎力で相関がみられない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：インターンシップ・実習（経験者／N=16）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力<ボランティア学習(大学主催)>

相関係数

●リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、すべての基礎力で相関がみられない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：ボランティア学習（大学主催の地域貢献活動・社会活動）（経験者／N=18）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力<アルバイト>

相関係数

●リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中では、コンピテンシーの「課題発見力」で弱い逆相関が見られる（有意確率5%未満）。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：アルバイト（経験者／N=56）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力＜学生祭典(大学コンソーシアム京都の事業)＞

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは、対人領域の「**協働力**」のみであった（有意確率1%未満）。
±0.2～0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**親和力**」「**統率力**」、對自己領域の**すべての基礎力**で相関がみられる。リテラシーでは相関は見られない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：学生祭典（大学コンソーシアム京都の事業）（経験者／N=62）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力＜ボランティア・NPO活動＞

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、すべての基礎力で相関がみられない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：ボランティア・NPO活動（大学とは関係のない自主的活動）（経験者／N=20）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力＜友人や家族との交流＞

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中では、対人基礎領域の「**親和力**」、對自己領域の「**自信創出力**」で±0.2～0.4未満の弱い相関がみられる。
リテラシーでは「**情報収集力**」で**弱い逆相関**となっている。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：友人や家族との交流（経験者／N=62）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力＜家族との交流や世話＞

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中では、対人基礎領域の「**親和力**」のみで±0.2～0.4未満の弱い相関がみられる。
リテラシーでは「**情報収集力**」で**弱い逆相関**となっている。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：家族との交流や世話（経験者／N=62）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力<趣味・習い事>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中では、対人基礎領域の「**親和力**」のみで±0.2~0.4未満の弱い相関がみられる。
リテラシーでは「**課題発見力**」で**弱い逆相関**となっている。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：趣味・習い事（経験者／N=60）



※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



2. 各種活動の努力度と基礎力<地域の活動(まつり・清掃・防災・防犯活動など)>

相関係数

- リテラシー4項目とコンピテンシーの中分類の9項目の中で、相関係数が±0.4以上の相関がみられるものは、対人領域の「**親和力**」のみであった（有意確率1%未満）。
±0.2~0.4未満の弱い相関では、対人領域の「**協働力**」で相関がみられる。
リテラシーでは相関は見られない。

■各種活動の取り組み度合いと基礎力との相関関係：地域の活動（まつり・清掃・防災・防犯活動など）（経験者／N=40）



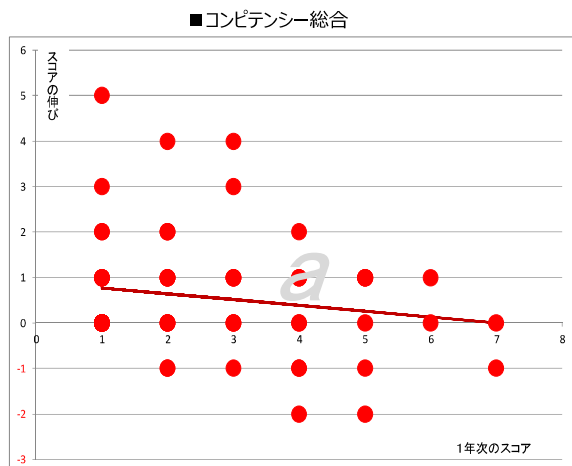
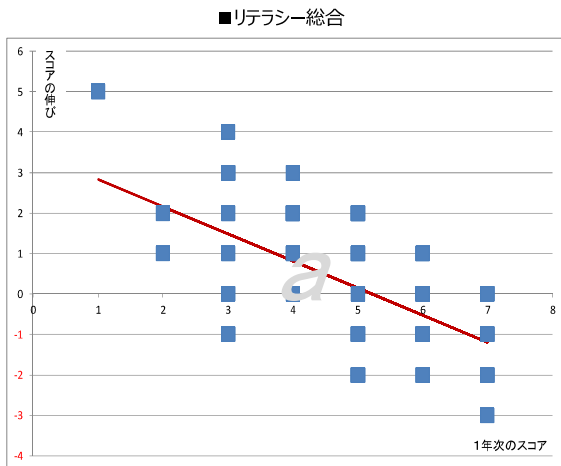
※各種活動の取り組み度合いは「とても努力した」= +6点～「全く努力しなかった」= +1点とし、「経験しなかった」は対象から除いて相関係数を算出した。



3.各種活動の努力度と、自己評価、 基礎力の伸長の関係

分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

リテラシー、コンピテンシーとも、事前（初期値）のスコアが低いほど、事後の伸び幅が大きい。
変化量の分析の際には、この初期値の影響を除去して考える必要がある。

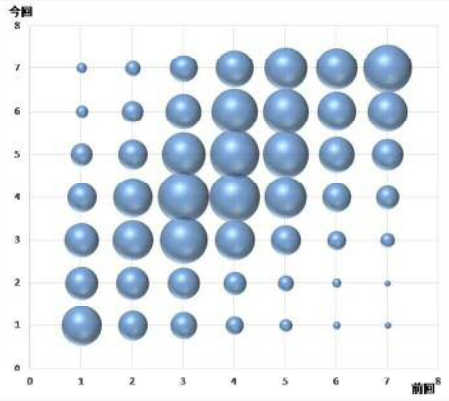




分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

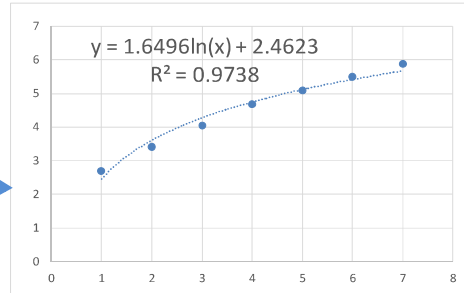
初期値の影響を除く方法として、PROGの経年変化のデータから、前回レベルから今回レベルを予測するモデルを作成し、各レベル間の変化量（実測値）と、モデルから求められる想定変化量の差を、「望ましさ」と考えて各レベル間のウェイトを設定した。このウェイトを[Progress Index]と呼ぶこととし、以下ではPI値と記す。

■前回→今回の移行例

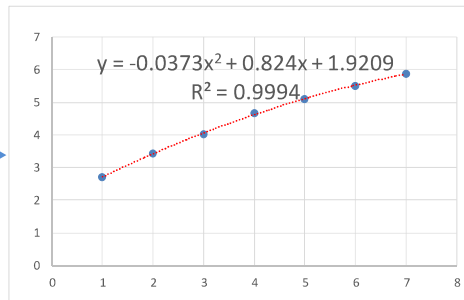


この
、
い

■予測モデル(対数)



■予測モデル(二次関数)



49



分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

各レベル間の変化量（実測値）と、モデルから求められる
想定変化量の差を、「望ましさ指標」として想定

「望ましさ指標」を大きさに順に並べ、
ハンドリングのし易さを考慮して 1~100点に変換

11	1	1	2.71	1.71
12	1	2	2.71	0.71
13	1	3	2.71	0.29
14	1	4	2.71	1.29
15	1	5	2.71	2.29
16	1	6	2.71	3.29
17	1	7	2.71	4.29
21	2	1	3.42	2.42
22	2	2	3.42	1.42
23	2	3	3.42	0.42
24	2	4	3.42	0.58
25	2	5	3.42	1.58
26	2	6	3.42	2.58
27	2	7	3.42	3.58
31	3	1	4.06	3.06
32	3	2	4.06	2.06
33	3	3	4.06	1.06
34	3	4	4.06	0.06



				100
49	1	7	4.29	100
48	2	7	3.58	98
47	1	6	3.29	96
46	3	7	2.94	94
45	2	6	2.58	92
44	4	7	2.38	90
43	1	5	2.29	88
42	3	6	1.94	86
41	5	7	1.89	84
40	2	5	1.58	81
39	6	7	1.48	79
38	4	6	1.38	77
37	1	4	1.29	75
36	7	7	1.14	73
35	3	5	0.94	71
34	5	6	0.89	69
33	2	4	0.58	67
32	6	6	0.48	65

57	5	7	5.11	1.89
61	6	1	5.52	4.52
62	6	2	5.52	3.52
63	6	3	5.52	2.52
64	6	4	5.52	1.52
65	6	5	5.52	0.52
66	6	6	5.52	0.48
67	6	7	5.52	1.48
71	7	1	5.88	4.88
72	7	2	5.88	3.88
73	7	3	5.88	2.88
74	7	4	5.88	1.88
75	7	5	5.88	0.88
76	7	6	5.88	0.14
77	7	7	5.88	1.14

15	7	4	1.86	30
14	3	2	2.06	28
13	5	3	2.11	26
12	2	1	2.42	24
11	6	3	2.52	22
10	4	2	2.62	20
9	7	3	2.86	18
8	3	1	3.06	15
7	5	2	3.11	13
6	6	2	3.52	11
5	4	1	3.62	9
4	7	2	3.86	7
3	5	1	4.11	5
2	6	1	4.52	3
1	7	1	4.86	1

50

分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

今回の分析には、1年→3年の学生は2学年の変化量を、1年→2年、2年→3年の学生は1学年の変化量指標として、下記のPI値を用いた。

★1学年変化

リテラシー総合

		最新値						
		1	2	3	4	5	6	7
初期値	1	32	46	61	75	88	96	100
	2	24	38	53	67	81	92	98
	3	15	28	42	57	71	86	94
	4	9	20	34	48	63	77	90
	5	5	13	26	40	55	69	84
	6	3	11	22	36	51	65	79
	7	1	7	18	30	44	59	73

リテラシー中分類

		最新値				
		1	2	3	4	5
初期値	1	34	55	75	92	100
	2	22	42	63	84	96
	3	9	26	46	67	88
	4	5	18	38	59	79
	5	1	13	30	51	71

コンピテンシー

		最新値						
		1	2	3	4	5	6	7
初期値	1	40	55	69	81	90	96	100
	2	28	42	57	71	84	92	98
	3	20	32	46	61	75	86	94
	4	13	24	36	51	65	77	88
	5	7	15	26	38	53	67	79
	6	3	9	18	30	44	59	73
	7	1	5	11	22	34	48	63

★2学年変化

リテラシー総合

		最新値						
		1	2	3	4	5	6	7
初期値	1	26	40	55	69	84	96	100
	2	18	32	46	61	75	90	98
	3	9	22	36	51	65	79	94
	4	7	20	34	48	63	77	92
	5	5	15	30	44	59	73	88
	6	3	13	28	42	57	71	86
	7	1	11	24	38	53	67	81

リテラシー中分類

		最新値				
		1	2	3	4	5
初期値	1	26	46	67	88	100
	2	13	34	55	75	96
	3	9	30	51	71	92
	4	5	22	42	63	84
	5	1	18	38	59	79

コンピテンシー

		最新値						
		1	2	3	4	5	6	7
初期値	1	40	55	69	81	90	96	100
	2	28	42	57	71	84	92	98
	3	20	32	46	61	75	86	94
	4	11	22	34	48	63	77	88
	5	7	15	26	38	53	67	79
	6	3	9	18	30	44	59	73
	7	1	5	13	24	36	51	65

51

3. 各種活動の努力度と自己評価、基礎力の伸長の関連のサマリー 相関係数

基礎力伸長度 (PI値) との 有意項目のまとめ一覧

1%有意
5%有意
10%有意

※赤字=相関係数はプラス
※青字=相関係数がマイナス(逆相関)

相関係数=±0.4以上: ◎、±0.2~0.4未満: ○

		リテラシー		コンピテンシー		
		総合	対人	対自己	対課題	
①成長の 自己評価 (事後)	行動力		◎	◎		◎
	責任感		◎	◎	◎	◎
	楽しむマインド		◎	◎	◎	
	京都LOVE(地域愛)					
	前向き力					
	論理的思考力		◎	◎	◎	◎
	見通し力	○	◎	◎	◎	◎
	コミュニケーション力		◎	◎	◎	
	協力を得る力	○	◎	◎		
	伝える力				◎	
	多様性の理解	○			◎	◎
チームワーク力		◎	◎	◎	◎	
地域の理解		◎		◎		
②各種活動の 努力度	授業(講義・演習等)	○			◎	
	課題解決型学習	○	◎	◎	◎	◎
	学内のイベントの企画・運営等			◎	◎	
	部活動・サークル	○	◎	◎		◎
	インターンシップ・実習					◎
	ボランティア学習(大学主催の地域貢献活動・社会活動)		◎		◎	◎
	アルバイト					◎
	学生祭典(大学コンソーシアム京都の事業)		◎	◎	◎	
	ボランティア・NPO活動(大学とは関係のない自主的活動)	○	◎		◎	
	友人や家族との交流					◎
	家族との交流や世話					◎
	趣味・習い事		◎		◎	◎
地域の活動(まつり・清掃・防災・防犯活動など)					◎	

※相関行列表は項目数が多いため、別途納品

52

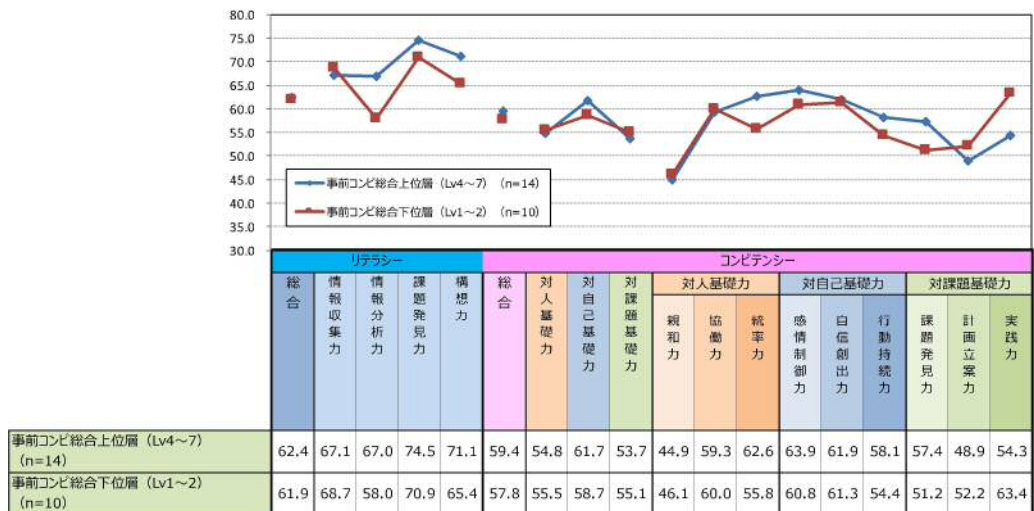


4.コンピテンシー総合(事前)の上位下位別基礎力の伸長

4. コンピテンシー総合(事前)の上位下位別基礎力の伸長 PI値比較

- PROGの事前スコアにおいて「コンピテンシー総合」のスコアでレベル4～7を上位層、レベル1～2を下位層と設定し、基礎力の伸長（PI値）の平均値を比較した。
- 事後の伸長度合いとしては、事前上位層は下位層に比べて「情報分析力」「統率力」の伸びが高く、事前下位層は上位層に比べて「実践力」の伸びが高いが、次ページの検定の結果、その差に統計的な優位差はない。

■ 事前コンピテンシー総合上位/下位別の基礎力の伸長（PI値）



3601_上位下位×PI



4. コンピテンシー総合(事前)の上位下位別基礎力の伸長

平均差の検定

■事前コンピテンシー総合上位/下位別の基礎力の伸長(PI値)の上位と下位の平均の差の検定



3002_上位下位別PI値検定

(凡例) 1%有意 5%有意 10%有意

相関係数	アンケート(自己評価)										リテラシー										コンピテンシー																		
	行動力	責任感	楽しさマインド	京都LOVE(地域)	前向き力	論理的思考力	見通し力	コミュニケーション力	協力を得る力	伝える力	多様性の理解	チームワーク力	地域の理解	総合情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	コンピ総合評価	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力									
1.000																																							
0.553	1.000																																						
0.364	0.521	1.000																																					
0.509	0.307	0.024	1.000																																				
0.467	0.353	0.449	0.299	1.000																																			
0.633	0.644	0.414	0.353	0.499	1.000																																		
0.476	0.545	0.277	0.275	0.277	0.532	1.000																																	
0.516	0.509	0.300	0.496	0.311	0.476	0.524	1.000																																
0.285	0.245	0.286	0.271	0.271	0.222	0.134	0.292	1.000																															
0.408	0.333	0.151	0.385	0.319	0.502	0.250	0.467	0.339	1.000																														
0.408	0.398	0.250	0.299	0.063	0.387	0.409	0.424	0.124	0.142	1.000																													
0.599	0.664	0.441	0.332	0.294	0.558	0.486	0.577	0.340	0.317	0.375	1.000																												
0.446	0.294	0.025	0.678	0.136	0.366	0.500	0.474	0.120	0.211	0.440	0.287	1.000																											
0.000	0.172	-0.022	-0.060	-0.133	0.048	-0.005	-0.013	-0.134	-0.094	0.269	0.147	-0.183	1.000																										
0.025	0.114	-0.012	-0.066	-0.013	-0.027	-0.029	-0.070	-0.171	-0.137	0.131	-0.031	-0.228	0.678	1.000																									
-0.040	0.109	0.121	-0.208	-0.071	0.090	0.181	0.018	0.027	-0.062	0.182	0.203	-0.249	0.545	0.342	1.000																								
0.076	0.216	-0.028	0.110	-0.002	0.246	0.091	0.245	-0.051	0.090	0.114	0.244	0.056	0.387	0.184	0.146	1.000																							
-0.013	0.118	-0.073	-0.044	-0.114	0.089	-0.003	-0.066	-0.215	-0.050	0.175	0.077	-0.100	0.739	0.530	0.387	1.000																							
0.605	0.524	0.399	0.406	0.496	0.666	0.481	0.548	0.325	0.485	0.404	0.482	0.417	0.073	0.105	0.133	0.175	0.123	1.000																					
0.494	0.398	0.337	0.337	0.423	0.511	0.359	0.521	0.340	0.423	0.302	0.343	0.332	-0.010	0.036	0.134	0.070	0.043	0.914	1.000																				
0.606	0.446	0.365	0.496	0.509	0.639	0.460	0.483	0.190	0.483	0.393	0.477	0.473	0.039	0.000	0.000	0.218	0.128	0.849	0.685	1.000																			
0.237	0.289	0.125	0.016	0.143	0.387	0.271	0.143	0.212	0.249	0.242	0.289	0.027	0.313	0.220	0.365	0.188	0.139	0.410	0.285	0.208	1.000																		
0.376	0.383	0.235	0.391	0.292	0.403	0.155	0.502	0.348	0.281	0.301	0.317	0.346	-0.040	-0.108	-0.036	-0.006	-0.042	0.652	0.734	0.427	0.248	1.000																	
0.554	0.497	0.429	0.314	0.416	0.493	0.462	0.494	0.385	0.413	0.358	0.475	0.316	0.008	0.058	0.193	0.067	0.112	0.846	0.865	0.668	0.340	0.566	1.000																
0.299	0.221	0.226	0.215	0.356	0.481	0.302	0.292	0.082	0.349	0.168	0.112	0.242	0.036	0.133	0.132	0.079	0.078	0.758	0.791	0.634	0.178	0.311	0.606	1.000															
0.525	0.368	0.398	0.402	0.516	0.552	0.414	0.439	0.227	0.479	0.331	0.418	0.299	0.163	0.125	0.074	0.169	0.148	0.756	0.622	0.811	0.291	0.361	0.617	0.612	1.000														
0.584	0.415	0.385	0.473	0.495	0.567	0.400	0.408	0.227	0.382	0.383	0.436	0.432	0.001	-0.047	-0.080	0.217	0.105	0.692	0.582	0.854	0.078	0.358	0.595	0.477	0.610	1.000													
0.395	0.394	0.200	0.372	0.325	0.455	0.332	0.356	0.073	0.357	0.258	0.278	0.360	-0.076	0.069	-0.032	0.171	0.051	0.693	0.516	0.754	0.101	0.234	0.492	0.560	0.494	0.505	1.000												
0.350	0.319	0.077	0.142	0.190	0.459	0.332	0.234	0.095	0.228	0.252	0.336	0.186	0.377	0.352	0.344	0.330	0.248	0.489	0.304	0.404	0.745	0.257	0.307	0.237	0.377	0.235	0.294	1.000											
0.103	0.194	0.063	0.025	0.067	0.266	0.146	0.102	0.214	0.292	0.151	0.204	-0.001	0.208	0.061	0.253	0.045	0.005	0.265	0.201	0.065	0.905	0.223	0.224	0.102	0.198	-0.021	-0.045	0.524	1.000										
0.239	0.333	0.138	-0.121	0.042	0.279	0.279	0.027	0.106	0.116	0.230	0.348	-0.097	0.301	0.138	0.278	0.202	0.276	0.253	0.132	0.158	0.717	0.130	0.271	-0.022	0.152	0.150	0.001	0.493	0.532	1.000									

10: 1000円以下 自己評価×1000

(凡例) : 1%有意 5%有意 10%有意

相関係数	アンケート(自己評価)										リテラシー										コンピテンシー										
	行動力	責任感	楽しさマインド	京都LOVE(地域)	前向き力	論理的思考力	見通し力	コミュニケーション力	協力を得る力	伝える力	多様性の理解	チームワーク力	地域の理解	総合情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	コンピ総合評価	対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力	
1.000																															
0.553	1.000																														
0.364	0.521	1.000																													
0.509	0.307	0.024	1.000																												
0.467	0.353	0.449	0.299	1.000																											
0.633	0.644	0.414	0.353	0.499	1.000																										
0.476	0.545	0.277	0.275	0.277	0.532	1.000																									
0.516	0.509	0.300	0.496	0.311	0.476	0.524	1.000																								
0.285	0.245	0.286	0.271	0.271	0.222	0.134	0.292	1.000																							
0.408	0.333	0.151	0.385	0.319	0.502	0.250	0.467	0.339	1.000																						
0.408	0.398	0.250	0.299	0.063	0.387	0.409	0.424	0.124	0.142	1.000																					
0.599	0.664	0.441	0.332	0.294	0.558	0.486	0.577	0.340	0.317	0.375	1.000																				
0.446	0.294	0.025	0.678	0.136	0.366	0.500	0.474	0.120	0.211	0.440	0.287	1.000																			
0.000	0.172	-0.022	-0.060	-0.133	0.048	-0.005	-0.013	-0.134	-0.094	0.269	0.147	-0.183	1.000																		
0.025	0.114	-0.012	-0.066	-0.013	-0.027	-0.029	-0.070	-0.171	-0.137	0.131	-0.031	-0.228	0.678	1.000																	
-0.040	0.109	0.121	-0.208	-0.071	0.090	0.181	0.018	0.027	-0.062	0.182	0.203	-0.249	0.545	0.342	1.000																
0.076	0.216	-0.028	0.110	-0.002	0.246	0.091	0.245	-0.051	0.090	0.114	0.244	0.056	0.387	0.184	0.146	1.000															
-0.013	0.118	-0.073	-0.044	-0.114	0.089	-0.003	-0.066	-0.215	-0.050	0.175	0.077	-0.100	0.739	0.530	0.387	1.000															
0.605	0.524	0.399	0.406	0.496	0.666	0.481	0.548	0.325	0.485	0.404	0.482	0.417	0.073	0.105	0.133	0.175	0.123	1.000													
0.494	0.398	0.337	0.337	0.423	0.511	0.359	0.521	0.340	0.423	0.302	0.343	0.332	-0.010	0.036	0.134	0.070	0.043	0.914	1.000												
0.606	0.446	0.365	0.496	0.509	0.639	0.460	0.483	0.190	0.483	0.393	0.477	0.473	0.039	0.000	0.000	0.218	0.128	0.849	0.685	1.000											
0.237	0.289	0.125	0.016	0.143	0.387	0.271	0.143	0.212	0.249	0.242	0.289	0.027	0.313	0.220	0.365	0.188	0.139	0.410	0.285	0.208	1.000										
0.376	0.383	0.235	0.391	0.292	0.403	0.155	0.502	0.348	0.281	0.301	0.317	0.346	-0.040	-0.108	-0.036	-0.006	-0.042	0.652	0.734	0.427	0.248	1.000									
0.554	0.497	0.429	0.314	0.416	0.493	0.462	0.494	0.385	0.413	0.358	0.475	0.316	0.008	0.058	0.193	0.067	0.112	0.846	0.865	0.668	0.340	0.566	1.000								
0.299	0.221	0.226	0.215	0.356	0.481	0.302	0.292	0.082	0.349	0.168	0.112	0.242	0.036	0.133	0.132	0.079	0.078	0.758	0.791	0.634	0.178	0.311	0.606	1.000							
0.525	0.368	0.398	0.402	0.516	0.552	0.414	0.439	0.227	0.479	0.331	0.418	0.299	0.163	0.125	0.074	0.169	0.148	0.756	0.622	0.811	0.291	0.361	0.617	0.612	1.000						
0.584	0.415	0.385	0.473	0.495	0.567	0.400	0.408	0.227	0.382	0.383	0.436	0.432	0.001	-0.047	-0.080	0.217	0.105	0.692	0.582	0.854	0.078	0.358	0.595	0.477	0.610	1.000					
0.395	0.394	0.200	0.372	0.325	0.455	0.332	0.356	0.073	0.357	0.258	0.278	0.360	-0.076	0.069	-0.032	0.171	0.051	0.693	0.516	0.754	0.101	0.234	0.492	0.560	0.494	0.505	1.000				
0.350	0.319	0.077	0.142	0.190	0.459	0.332	0.234	0.095	0.228	0.252	0.336	0.186	0.377	0.352	0.344	0.330	0.248	0.489	0.304	0.404	0.745	0.257	0.307	0.237	0.377	0.235	0.294	1.000			
0.103	0.194	0.063	0.025	0.067	0.266	0.146	0.102	0.214	0.292	0.151	0.204	-0.001	0.208	0.061	0.253	0.045	0.005	0.265	0.201	0.065	0.905	0.223	0.224	0.102	0.198	-0.021	-0.045	0.524	1.000		
0.239	0.333	0.138	-0.121	0.042	0.279	0.279	0.027	0.106	0.116	0.230	0.348	-0.097	0.301	0.138	0.278	0.202	0.276	0.253	0.132	0.158	0.717	0.130	0.271	-0.022	0.152	0.150	0.001	0.493	0.532	1.000	

10: 0.0001未満 自己評価×Princ

相関係数	アンカー (努力度)										リテラシー					コンピテンシー														
	授業 (講義・演習等)	課題解決型学習	学内のイベントの企画・運営等	学内・サークル活動	インターンシップ・実習	ボランティア活動 (大学主催の地域貢献活動・ボランティア活動)	ポランティア活動 (大学の授業・学外活動)	学生祭典・コンクールの企画・運営	学外・NPO活動 (大学と関係のある社会活動)	友人や家族との交流	家族との交流・世話	趣味・習い事	地域の活動 (まつり・清掃・防災・防犯活動)	PL_総合力	PL_読解力	PL_対人基礎力	PL_自己基礎力	PL_対課題基礎力	PL_親和力	PL_協働力	PL_統率力	PL_調整力	PL_感情制御力	PL_創造力	PL_自信力	PL_行動力	PL_課題発見力	PL_計画立案力	PL_実践力	
1.000																														
0.451	1.000																													
0.135	0.300	1.000																												
0.195	0.392	0.463	1.000																											
0.422	0.406	0.051	0.005	1.000																										
0.389	-0.088	0.354	0.081	0.441	1.000																									
0.311	0.126	0.310	0.323	0.674	0.669	1.000																								
0.181	0.276	0.129	0.457	0.254	0.078	-0.008	1.000																							
0.252	0.237	0.335	-0.154	0.752	0.816	0.519	-0.183	1.000																						
0.049	0.119	0.294	0.266	0.516	0.428	0.168	0.356	0.345	1.000																					
0.352	0.216	0.432	0.453	0.130	0.180	0.452	0.104	0.341	0.380	1.000																				
0.152	0.113	0.569	0.327	0.243	0.476	0.249	0.289	0.398	0.644	0.466	1.000																			
-0.067	0.174	0.390	0.107	0.215	0.062	0.251	0.058	0.090	0.415	0.313	0.588	1.000																		
-0.267	-0.219	0.142	-0.252	0.073	-0.032	-0.062	-0.059	0.321	0.050	-0.174	-0.029	-0.114	1.000																	
-0.266	-0.091	-0.040	-0.501	-0.288	-0.505	-0.158	-0.250	-0.001	-0.362	-0.371	-0.274	-0.192	0.504	1.000																
0.148	-0.134	-0.222	-0.386	-0.022	-0.347	-0.280	0.082	-0.435	0.043	-0.227	-0.185	0.047	0.249	0.003	1.000															
0.128	-0.221	0.136	-0.488	0.178	0.042	-0.131	0.088	0.168	-0.009	-0.133	-0.199	-0.123	0.470	-0.025	0.408	1.000														
-0.221	-0.234	0.151	-0.128	0.185	-0.402	-0.111	0.125	-0.057	-0.004	-0.000	-0.133	-0.254	0.634	0.297	-0.005	0.398	1.000													
0.192	0.412	0.196	0.332	0.122	-0.383	-0.115	0.483	-0.247	-0.089	0.016	-0.210	0.025	-0.211	-0.183	0.125	0.095	0.122	1.000												
0.184	0.530	0.301	0.503	0.181	-0.057	0.011	0.620	-0.163	-0.005	0.066	-0.090	-0.008	-0.306	-0.257	-0.014	-0.178	-0.079	0.815	1.000											
0.214	0.085	-0.504	0.189	0.145	-0.336	-0.035	0.261	-0.264	-0.029	0.134	-0.299	-0.125	-0.176	-0.288	0.050	0.215	0.247	0.680	0.391	1.000										
0.167	0.445	-0.053	-0.550	0.375	-0.452	-0.262	-0.030	-0.194	-0.353	-0.230	-0.364	0.027	0.103	0.338	0.427	0.194	0.137	0.426	0.205	0.115	1.000									
0.130	0.357	0.270	0.327	0.346	-0.054	0.179	0.580	0.040	0.299	0.283	0.192	0.336	-0.109	-0.252	-0.105	-0.127	-0.175	0.505	0.670	0.126	0.117	1.000								
0.337	0.359	0.054	0.205	0.250	-0.098	0.072	0.330	-0.336	-0.243	0.053	-0.510	-0.090	-0.389	-0.338	0.214	0.084	-0.007	0.700	0.658	0.537	0.328	0.234	1.000							
-0.143	0.230	0.128	0.264	-0.160	-0.450	-0.199	0.337	-0.346	-0.081	-0.042	0.052	0.117	-0.160	-0.014	-0.030	-0.122	0.044	0.595	0.550	0.414	0.033	0.214	0.169	1.000						
0.188	0.207	-0.736	0.215	0.350	-0.366	-0.025	0.302	-0.036	-0.017	-0.072	-0.352	-0.223	0.055	0.000	0.261	0.098	0.287	0.590	0.403	0.754	0.279	0.135	0.402	0.471	1.000					
0.043	0.079	-0.078	0.298	0.301	-0.189	0.024	0.222	-0.398	0.034	0.047	-0.185	0.102	-0.285	-0.418	-0.025	0.052	0.028	0.680	0.464	0.793	0.108	0.268	0.558	0.337	0.545	1.000				
0.152	-0.017	-0.125	-0.057	-0.615	-0.622	-0.286	0.172	-0.418	-0.229	0.008	-0.357	-0.246	0.071	0.073	0.011	0.377	0.399	0.418	0.027	0.625	0.148	-0.107	0.158	0.386	0.406	0.282	1.000			
0.131	0.269	-0.027	0.325	0.163	-0.552	-0.254	0.016	-0.083	-0.345	-0.273	-0.262	0.121	0.351	0.428	0.245	0.375	0.203	0.229	-0.041	-0.020	0.585	0.158	0.263	0.158	0.263	-0.066	0.181	1.000		
0.090	0.368	-0.233	-0.566	0.407	0.143	-0.016	-0.132	-0.006	-0.223	-0.067	-0.259	0.059	-0.083	0.182	0.280	-0.038	-0.128	0.365	0.284	0.170	0.724	0.191	0.300	0.228	0.256	0.195	0.047	0.137	1.000	
0.021	0.151	0.157	-0.358	0.160	-0.407	-0.295	-0.059	-0.382	-0.259	-0.223	-0.354	-0.215	0.093	0.111	0.401	0.277	0.224	0.326	0.326	0.133	0.750	0.046	0.360	0.267	0.121	0.179	0.104	0.253	0.441	1.000

京都学生祭典実行委員の活動を通じた成長についてのアンケート【中間調査】

この調査は、京都学生祭典実行委員のみなさんが、委員の活動を通じて何を学び身に着けたのかを通じ、今後の京都学生祭典の活動をより発展させるために実施するものです。この調査は、回答は、すべて統計的に処理しますので、みなさんのプライバシーが知られる可能性はありません。また、調査結果は、論文や報告書の形で、公表することがありますが、その場合も、回答者個人を特定できない方法と形式で行います。ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先
公益財団法人大学コンソーシアム京都
学生交流事業部 筑田 一毅
Tel:075-353-9189 Fax:075-353-9121
E-mail:gakml@consortium.or.jp

部署名:

大学名:

回生

氏名:

※以下、各項目のあてはまる得点マスに○をつけ、その理由や根拠、コメントを必ず記入してください

第14回京都学生祭典評価シート			【調査日】 2016年 月 日	
分類	項目	内容	中間評価	評価の理由・根拠・コメント (具体的に書き下し)
行動力		何をしたらいいかわからず、行動できない	1	
		周りからの指示があれば、行動できる	2	
		周りからの指示がなくても行動できるが、目標を意識していないことが多い	3	
		自分で判断して行動できるが、目標を達成できることが少ない	4	
		自分で判断して行動し、目標を達成することができる	5	
責任感		自分の役割が分からず、役割を果たしていない	1	
		自分の役割を把握しているが、自分の役割を果たしていない	2	
		自分の役割を把握して、自分の役割を果たそうとチャレンジしているが、できていないことがある	3	
		自分の役割を把握して、自分の役割を果たしている	4	
		自分の役割の範囲だけでなく、全体を把握して、最後まで諦めずに自分の役割を果たしている	5	
楽しむ マインド		なぜやっているのかわからず、何もしていない	1	
		なぜやっているのかわからないまま、タスクとしてやっている	2	
		活動の目的を理解しているが、やりがいが見いだせない	3	
		活動の目的を理解して、日々の活動を楽しんでいる	4	
		活動の目的に共感し、やりがいを感じながら活動を楽しんでいる	5	
京都LOVE (地域愛)		京都に興味関心がなく、京都のことを説明することができない	1	
		京都に興味関心はあるが、京都のことを説明することができない	2	
		京都に興味関心があり、京都のことを説明することができる	3	
		京都に高い興味関心があり、自ら京都の魅力を発見し、周囲に発信することができる	4	
		京都に高い興味関心があり、自ら京都の魅力を発見し、その魅力を元に新たな価値を生み出すことができる	5	
前向き力		つらい状況になった時に、くよくよ考えてしまい、気持ちの切り替えができない	1	
		つらい状況になった時に、時々気持ちの切り替えができる	2	
		つらい状況になった時でも気持ちの切り替えができる	3	
		つらい状況になった時に、前向きに行動できる	4	
		どのような状況下でも、前向きに行動できる	5	
論理的 思考力		考えようがない。または、一つ一つの情報すら理解できない	1	
		一つ一つの情報は理解できるが、それらの関係性はわからない	2	
		一つ一つの情報を理解することができ、それらの関係性も理解できる。	3	
		関係性を理解した上で全体の中での位置づけをすることができる	4	
		情報を理解し、組み立てて活用することができる	5	
見通し力		課題が分からず、目の前の個人の仕事に対して着手できない	1	
		目の前の個人の仕事に対して着手することができる	2	
		自分の部署の企画の流れを理解し、実行に移すことができる	3	
		学生祭典全体の流れを捉える事ができ、優先順位を付けて、実行に移すことができる	4	
		学生祭典全体の流れを捉える事ができ、優先順位を付けて実行に移すことができ、不測の事態を予想することができる	5	
他者への コミュニケーション		相手を理解しようとしな。または、相手の話を理解できない	1	
		相手の話は理解できるが、自分の意見を相手に理解してもらえない	2	
		相手の話を理解し、また自分の意見を相手に理解してもらいことができる	3	
		背景を含め、お互いに理解を深めて、より有益な関連情報等を交換し合える	4	
		背景を含め、お互いに理解を深めて、より有益な関連情報等を交換した上で、更なる協力を得ることができる	5	
他者への 協力を 得る力		誰にも相談せず、自分で抱え込んでしまう	1	
		誰にも相談せず、自分で抱え込み、自分一人で解決しようとする	2	
		解決に向けて、自ら周りの人から意見を聞くことができる	3	
		解決に向けて、自ら周りの人から意見を聞いて、協力を得ることができる	4	
		解決に向けて、周りの人が同じ目標に向かって行動してくれる	5	
他者への 伝える力		言いたいことがわからない	1	
		言いたいことはあるが、うまくまとまらず、言葉にすることができない	2	
		言いたいことを言葉にすることができる	3	
		分かりやすく自分の言葉で説明することができる	4	
		分かりやすく自分の言葉で説明し、相手が理解してくれる	5	
他者への 多様性 の理解		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場に関心がない	1	
		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場に関心はあるが、理解はできない	2	
		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場に関心があり、理解をしているが、それを踏まえて行動することができない	3	
		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場を理解して、行動することができる	4	
		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場を理解し、新たな価値を創造することができる	5	
チーム ワーク力		人の意見を理解することができず、一緒に行動することができない	1	
		チームの一員として動くことができる	2	
		自分の役割を自覚して、チームの一員として動くことができる	3	
		チームメンバーとして動くことができ、チームメンバーの良さを引き出すことができる	4	
		チームメンバーの良さを引き出し、お互いの足りない部分を補う事ができる	5	
地域 への 理解		地域のニーズ・課題を理解できない	1	
		地域のニーズ・課題を理解できる(行動は伴わない)。	2	
		地域の課題解決に加わることができる	3	
		地域の方々を合わせて課題を解決できる。	4	
		地域課題の解決策を自ら提示し、地域の方々を合わせて課題を解決できる	5	

問1 今年度の京都学生祭典の委員を始めてから今まで、京都学生祭典の活動をどの程度がんばりましたか。

1. とてもがんばった
2. ややがんばった
3. どちらかといえばがんばった
4. どちらかといえばがんばらなかった
5. あまりがんばらなかった
6. まったくがんばらなかった

問2 今年度委員になってから今まで、「睡眠以外の活動時間」のどの程度を京都学生祭典の活動に費やしましたか。

【 】%

<学修活動経験アンケート部分>

問1 あなたの「性別」「年齢/回生」「出身地」を教えてください。

性別 1.女性 2.男性 3.どちらとも言えない
 年齢 () 歳 / () 回生
 出身地 1.京都市、2.京都市以外の京都府、3.近畿地方の府県 ()、4.その他の都道府県 ()

問2 あなたの実行委員会の活動についてお伺いします。

①今年で何回目の実行委員になりますか。 1.一回目 2.二回目 3.三回目 4.四回目
 ②担当部署は、次のどれにあたりますか。また、昨年以前にも活動をされていた場合、その活動についてもあてはまる数字をご記入ください。
 今回 [] 前回 [] 前々回 [] 前々々回 []
 1.執行部(四役) 2.企画運営部 3.広報部 4.営業部 5.警備部 6.おどり普及部 7.年間交流部 8.総務部 9.未定

問3 あなたの高校までの生活で努力したものから順に、[] 内に1~3の番号をつけてください。

[] 学校の勉強	[] ボランティア活動
[] 部活動	[] アルバイト・仕事
[] 友人や恋人との交流	[] 塾
[] 家族との交流や世話	[] 趣味・習い事

問4 あなたの高校までの学業成績は、次のどれにあたりますか。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

1.上 2.中の上 3.中 4.中の下 5.下

問5 あなたはこれまでの大学生活で次にあげる項目についてどの程度努力しましたか。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

とても努力した ←————→ まったく努力しなかった (経験しなかった)

1. 授業(講義・演習等)	1	2	3	4	5	6	7
2. 課題解決型学習(大学の授業または学内プロジェクト)	1	2	3	4	5	6	7
3. 学内イベントの企画・運営等	1	2	3	4	5	6	7
4. 部活動・サークル	1	2	3	4	5	6	7
5. インターンシップ・実習	1	2	3	4	5	6	7
6. ボランティア学習(大学主催の地域貢献活動・社会活動)	1	2	3	4	5	6	7
7. アルバイト	1	2	3	4	5	6	7
8. 学生祭典(大学コンソーシアム京都の事業)	1	2	3	4	5	6	7
9. ボランティア・NPO活動(大学と関係のない自主的活動)	1	2	3	4	5	6	7
10. 友人や家族との交流	1	2	3	4	5	6	7
11. 家族との交流や世話	1	2	3	4	5	6	7
12. 趣味・習い事	1	2	3	4	5	6	7
13. 地域の活動(まつり・清掃・防災・防犯活動など)	1	2	3	4	5	6	7

問6 あなたのこれまでの生活についてお伺いします。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

①部長や委員長など集団のリーダー的ポジションに就くこと	1.多い	2.少ない	3.ほとんどない
②幹部のポジション(副部長・書記など)に就くこと	1.多い	2.少ない	3.ほとんどない
③友達グループの中心に居ること	1.多い	2.少ない	3.ほとんどない
④ボランティア活動の経験	1.多い	2.少ない	3.ほとんどない
⑤子ども会や地域清掃などの地域の活動経験	1.多い	2.少ない	3.ほとんどない
⑥子どもの頃に大人から本を読んでもらった経験	1.多い	2.少ない	3.ほとんどない

問7 あなたが子どものころ住んでいた地域についてお伺いします。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

①町内会や消防団、まつりなどの活動が盛んな地域だった	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.そう思わない
②近所での助け合いがほとんどない地域だった	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.そう思わない

問8 現在の地域との関わりについて伺います。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

①住んでいる地域に愛着がある	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.そう思わない
②地域の問題を解決したい	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.そう思わない
③地域の人間関係は煩わしい	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.そう思わない
④できれば地元で就職したい	1.そう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.そう思わない

問9 あなたは京都学生祭典実行委員のことをどのようにして知りましたか。あてはまる選択肢をいくつでも○をしてください。

1.雑誌、新聞を読んで	2.テレビを見て、ラジオを聞いて
3.コンソーシアム京都のインターネット・携帯サイトから	4.教員に紹介されて
5.ボランティア情報誌、機関誌を読んで	6.過去の京都学生祭典のイベントに参加して
7.キャンパスプラザ京都で情報を知って	8.各大学の窓口で
9.友人から聞いた	10.家族・親戚に聞いた
11.実行委員経験者に聞いた	12.その他 ()

問10 あなたが京都学生祭典実行委員になろうと決めたのはどのような理由からですか。あてはまる選択肢をいくつでも○をしてください。

1.祭典実行委員に誘われたから	2.友人に誘われたから
3.コンソーシアム京都の職員に誘われたから	4.インターカレッジの活動に魅力を感じたから
5.他大学の友人ができるから	6.活動が楽しそうだったから
7.何かの活動に参加したかったから	8.自分を変えたい、磨きたかったから
9.その他 ()	

問11 あなたが京都学生祭典実行委員の活動を通じて、得たいこと、学びたいことについて、ご自由にご記入ください。

京都学生祭典実行委員の活動を通じた成長についてのアンケート【事後調査】

この調査は、京都学生祭典実行委員のみなさんが、委員の活動を通じて何を学び身に着けたのかを通じ、今後の京都学生祭典の活動をより発展させるために実施するものです。この調査は、回答は、すべて統計的に処理しますので、みなさんのプライバシーが知られる可能性はありません。また、調査結果は、論文や報告書の形で、公表することがありますが、その場合も、回答者個人を特定できない方法と形式で行います。ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先
公益財団法人大学コンソーシアム京都
学生交流事業部 筑田 一毅
Tel:075-353-9189 Fax:075-353-9121
E-mail:kgk-ml@consortium.or.jp

部署名： 大学名： 回生 氏名：

※以下、各項目のあてはまる得点マスに○をつけ、その理由や根拠、コメントを必ず記入してください

第14回京都学生祭典評価シート			【調査日】 2016年 月 日	
分類	項目	内容	事後評価	評価の理由・根拠・コメント (具体的にお書き下さい)
個人	行動力	何をしたらいいかわからず、行動できない	1	
		周りからの指示があれば、行動できる	2	
		周りからの指示がなくても行動できるが、目標を意識していないことが多い	3	
		自分で判断して行動できるが、目標を達成できることが少ない	4	
		自分で判断して行動し、目標を達成することができる	5	
	責任感	自分の役割が分からず、役割を果たしていない	1	
		自分の役割を把握しているが、自分の役割を果たしていない	2	
		自分の役割を把握して、自分の役割を果たそうとチャレンジしているが、できていないことがある	3	
		自分の役割を把握して、自分の役割を果たしている	4	
		自分の役割の範囲だけでなく、全体を把握して、最後まで諦めずに自分の役割を果たしている	5	
	楽しむ マインド	なぜやっているのかわからず、何もしていない	1	
		なぜやっているのかわからないまま、タスクとしてやっている	2	
		活動の目的を理解しているが、やりがいが見いだせない	3	
		活動の目的を理解して、日々の活動を楽しんでいる	4	
		活動の目的に共感し、やりがいを感じながら活動を楽しんでいる	5	
京都LOVE (地域愛)	京都に興味関心がなく、京都のことを説明することができない	1		
	京都に興味関心はあるが、京都のことを説明することができない	2		
	京都に興味関心があり、京都のことを説明することができる	3		
	京都に高い興味関心があり、自ら京都の魅力を発見し、周囲に発信することができる	4		
	京都に高い興味関心があり、自ら京都の魅力を発見し、その魅力を元に新たな価値を生み出すことができる	5		
前向き力	つらい状況になった時に、くよくよ考えてしまい、気持ちの切り替えができない	1		
	つらい状況になった時に、時々気持ちの切り替えができる	2		
	つらい状況になった時でも気持ちの切り替えができる	3		
	つらい状況になった時に、前向きに行動できる	4		
	どのような状況下でも、前向きに行動できる	5		
論理的 思考力	考えようとしないうち、または、一つ一つの情報を理解できない	1		
	一つ一つの情報は理解できるが、それらの関係性は分からない	2		
	一つ一つの情報を理解することができ、それらの関係性も理解できる	3		
	関係性を理解した上で全体の中での位置づけをすることができる	4		
	情報を理解し、組み立てて活用することができる	5		
見通し力	課題が分からず、目の前の個人の仕事に対して着手できない	1		
	目の前の個人の仕事に対して着手することができる	2		
	自分の部署の企画の流れを理解し、実行に移すことができる	3		
	学生祭典全体の流れを捉える事ができ、優先順位を付けて、実行に移すことができる	4		
	学生祭典全体の流れを捉える事ができ、優先順位を付けて実行に移すことができ、不測の事態を予想することができる	5		
他者への 働きかけ	コミュニケーション 力	相手を理解しようとしないうち、または、相手の話を理解できない	1	
		相手の話は理解できるが、自分の意見を相手に理解してもらえない	2	
		相手の話を理解し、また自分の意見を相手に理解してもらえない	3	
		背景を含め、お互いに理解を深めて、より有益な関連情報等を交換し合える	4	
		背景を含め、お互いに理解を深めて、より有益な関連情報等を交換した上で、更なる協力を得ることができる	5	
協力 を得る力	誰にも相談せず、自分で抱え込んでしまう	1		
	誰にも相談せず、自分で抱え込み、自分一人で解決しようとする	2		
	解決に向けて、自ら周りの人から意見を聞くことができる	3		
	解決に向けて、自ら周りの人から意見を聞いて、協力を得ることができる	4		
	解決に向けて、周りの人が同じ目標に向かって行動してくれる	5		
伝える 力	言いたいことが分からない	1		
	言いたいことはあるが、うまくまとまらず、言葉にすることができない	2		
	言いたいことを言葉にすることができる	3		
	分かりやすく自分の言葉で説明することができる	4		
	分かりやすく自分の言葉で説明し、相手が理解してくれる	5		
他者への 働きかけ	多様性 の理解	チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場に関心がない	1	
		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場に関心はあるが、理解はできない	2	
		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場に関心があり、理解をしているが、それを踏まえて行動することができない	3	
		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場を理解して、行動することができる	4	
		チームメンバー・産学公地域・来場者などの考えや立場を理解し、新たな価値を創造することができる	5	
チーム ワーク力	人の意見を理解することができず、一緒に行動することができない	1		
	チームの一員として動くことができる	2		
	自分の役割を自覚して、チームの一員として動くことができる	3		
	チームメンバーとして動くことができ、チームメンバーの良さを引き出すことができる	4		
	チームメンバーの良さを引き出し、お互いの足りない部分を補う事ができる	5		
地域 への 働きかけ	地域 の理解	地域のニーズ・課題を理解できない	1	
		地域のニーズ・課題を理解できる(行動は伴わない)	2	
		地域の課題解決に加わることができる	3	
		地域の方々と力を合わせて課題を解決できる	4	
		地域課題の解決案を自ら提示し、地域の方々と力を合わせて課題を解決できる	5	

問1 今年度の京都学生祭典の委員を始めてから今まで、京都学生祭典の活動をどの程度がんばりましたか。

1. とてもがんばった
2. ややがんばった
3. どちらかといえばがんばった
4. どちらかといえばがんばらなかった
5. あまりがんばらなかった
6. まったくがんばらなかった

問2 今年度委員になってから今まで、「睡眠以外の活動時間」のどの程度を京都学生祭典の活動に費やしましたか。

【 】%

<学修活動経験アンケート部分>

◀必須回答項目▶※該当するものに○をしてください。
6/16の中間振り返りにて学修活動経験アンケートを、

1. 回答したことがある 2. 回答したことがない

「1」を回答した方は回答不要です。
「2」を回答した方は必ず回答してください。

問1 あなたの「性別」「年齢/回生」「出身地」を教えてください。

- 性別 1.女性 2.男性 3.どちらとも言えない
年齢 () 歳 / () 回生
出身地 1.京都市、2.京都市以外の京都府、3.近畿地方の府県 ()、4.その他の都道府県 ()

問2 あなたの実行委員会の活動についてお伺いします。

- ①今年で何回目の実行委員になりますか。 1.一回目 2.二回目 3.三回目 4.四回目
②担当部署は、次のどれにあたりますか。また、昨年以前にも活動をされていた場合、その活動についてもあてはまる数字をご記入ください。
今回 [] 前回 [] 前々回 [] 前々々回 []
1. 執行部 (四役) 2. 企画運営部 3. 広報部 4. 営業部 5. 警備部 6. おどり普及部 7. 年間交流部 8. 総務部 9. 未定

問3 あなたの高校までの生活で努力したもものから順に、[] 内に 1~3の番号をつけてください。

- | | | | |
|-----|-----------|-----|----------|
| [] | 学校の勉強 | [] | ボランティア活動 |
| [] | 部活動 | [] | アルバイト・仕事 |
| [] | 友人や恋人との交流 | [] | 塾 |
| [] | 家族との交流や世話 | [] | 趣味・習い事 |

問4 あなたの高校までの学業成績は、次のどれにあたりますか。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

- 1.上 2.中の上 3.中 4.中の下 5.下

問5 あなたはこれまでの大学生活で次にあげる項目についてどの程度努力しましたか。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

とも努力した ←————→ まったく努力しなかった (経験しなかった)

1. 授業(講義・演習等)	1	2	3	4	5	6	7
2. 課題解決型学習(大学の授業または学内プロジェクト)	1	2	3	4	5	6	7
3. 学内イベントの企画・運営等	1	2	3	4	5	6	7
4. 部活動・サークル	1	2	3	4	5	6	7
5. インターンシップ・実習	1	2	3	4	5	6	7
6. ボランティア学習(大学主催の地域貢献活動・社会活動)	1	2	3	4	5	6	7
7. アルバイト	1	2	3	4	5	6	7
8. 学生祭典(大学コンソーシアム京都の事業)	1	2	3	4	5	6	7
9. ボランティア・NPO 活動(大学と関係のない自主的活動)	1	2	3	4	5	6	7
10. 友人や家族との交流	1	2	3	4	5	6	7
11. 家族との交流や世話	1	2	3	4	5	6	7
12. 趣味・習い事	1	2	3	4	5	6	7
13. 地域の活動(まつり・清掃・防災・防犯活動など)	1	2	3	4	5	6	7

問6 あなたのこれまでの生活についてお伺いします。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

- | | | | |
|-----------------------------|------|-------|----------|
| ①部長や委員長など集団のリーダー的ポジションに就くこと | 1.多い | 2.少ない | 3.ほとんどない |
| ②幹部のポジション(副部長・書記など)に就くこと | 1.多い | 2.少ない | 3.ほとんどない |
| ③友達グループの中心にいること | 1.多い | 2.少ない | 3.ほとんどない |
| ④ボランティア活動の経験 | 1.多い | 2.少ない | 3.ほとんどない |
| ⑤子ども会や地域清掃などの地域の活動経験 | 1.多い | 2.少ない | 3.ほとんどない |
| ⑥子どもの頃に大人から本を読んでもらった経験 | 1.多い | 2.少ない | 3.ほとんどない |

問7 あなたが子どものころ住んでいた地域についてお伺いします。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

- | | | | | |
|----------------------------|--------|----------|-------------|----------|
| ①町内会や消防団、まつりなどの活動が盛んな地域だった | 1.そう思う | 2.ややそう思う | 3.あまりそう思わない | 4.そう思わない |
| ②近所での助け合いがほとんどない地域だった | 1.そう思う | 2.ややそう思う | 3.あまりそう思わない | 4.そう思わない |

問8 現在の地域との関わりについて伺います。あてはまる選択肢に一つだけ○をしてください。

- | | | | | |
|----------------|--------|----------|-------------|----------|
| ①住んでいる地域に愛着がある | 1.そう思う | 2.ややそう思う | 3.あまりそう思わない | 4.そう思わない |
| ②地域の問題を解決したい | 1.そう思う | 2.ややそう思う | 3.あまりそう思わない | 4.そう思わない |
| ③地域の人間関係は煩わしい | 1.そう思う | 2.ややそう思う | 3.あまりそう思わない | 4.そう思わない |
| ④できれば地元で就職したい | 1.そう思う | 2.ややそう思う | 3.あまりそう思わない | 4.そう思わない |

問9 あなたは京都学生祭典実行委員会のことをどのようにして知りましたか。あてはまる選択肢をいくつでも○をしてください。

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1.雑誌、新聞を読んで | 2.テレビを見て、ラジオを聞いて |
| 3.コンソーシアム京都のインターネット・携帯サイトから | 4.教員に紹介されて |
| 5.ボランティア情報誌、機関誌を読んで | 6.過去の京都学生祭典のイベントに参加して |
| 7.キャンパスプラザ京都で情報を知って | 8.各大学の窓口で |
| 9.友人から聞いた | 10.家族・親戚に聞いた |
| 11.実行委員経験者に聞いた | 12.その他 () |

問10 あなたが京都学生祭典実行委員になろうと決めたのはどのような理由からですか。あてはまる選択肢をいくつでも○をしてください。

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1.祭典実行委員に誘われたから | 2.友人に誘われたから |
| 3.コンソーシアム京都の職員に誘われたから | 4.インターカレッジの活動に魅力を感じたから |
| 5.他大学の友人ができるから | 6.活動が楽しそうだったから |
| 7.何かの活動に参加したかったから | 8.自分を変えたい、磨きたかったから |
| 9.その他 () | |

問11 あなたが京都学生祭典実行委員の活動を通じて、得たいこと、学びたいことについて、ご自由にご記入ください。